公益社団法人 日本柔道整復師会〈健康情報誌〉 www.shadan-nissei.or.jp VOL.11 MAY 2013 5

日整 はつらつ!

●目次

■先達の意気尊び　未来へ躍進誓う　社団法人設立60周年記念式典…… 1
柔整サロン 挫折を乗り越え、走り続ける…… 4
■輝ける未来への取り組み〈九州ブロック〉…… 8

私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています

●公開健康講座……19
北海道 第27回北海道柔道整復専門学校卒後教育講演会　茨城県 スポーツテーピングの特別公開講座　千葉県 第４回県民公開講演会　石川県 学術講演会･県民公開講演会　第13回文化講演会･第７回石川接骨みらい塾　愛知県 第７回県民公開講座笑顔にまさる薬なし　滋賀県 柔道整復学術大会　兵庫県 平成24年度学術研究会　広島県 平成24年度第２回定期学術講習会　福岡県 第22回生涯学習研修会

●ボランティア・その他……31
千葉県 ヘルシー船橋健康フェア　石川県 能登和倉万葉の里マラソン2013　静岡県 人間を救うのは、人間だ！　愛知県 第７回フォローアップ講習会

本の紹介 Anatomy trains 第２版……35
私の夢 夢への挑戦と前進 ……36
投稿 「高齢者の終末期医療およびケア～胃ろうを造設すべきか～」に参加して ……37
■平成25年度日整学術大会一覧……38
■「はつらつ！健康“骨つぎの知恵袋”」新聞連載スタート ……39
■表紙解説……41
■ご卒業おめでとうございます！平成24年度柔道整復師養成学校優等卒業生……42
■日整文芸……43
■編集後記……44

●Web Page　日整ホームページ　http://www.shadan-nissei.or.jp/

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ！」VOL.11または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌をクリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。

先達の意気尊び　未来へ躍進誓う

社団法人設立60周年記念式典

広報部

公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は平成25年３月24日、社団法人設立60周年記念式典と祝賀会を東京ドームホテルで開催した。田村憲久厚生労働大臣をはじめ政界、官界など各界から多数の来賓を迎え、会員併せて400名が出席し未来への躍進を心新たに誓い合った。日整の歴史を遡れば、明治の医制改革により禁止令が出されていた従前接骨業の復興を図り決起した萩原正会長の父、萩原七郎先生をはじめとする先達諸兄が大正２年に結成した柔道接骨術公認期成会に辿りつく。同９年、内務省令にて柔道整復術が公認され、大日本柔道整復術同志会を発足。以後、名称を幾多に変更しながら艱難辛苦の道を切り拓き昭和28年11月、社団法人全日本柔道整復師会を発足し、唯一の社団法人組織として業界をリード。同48年３月に社団法人日本柔道整復師会に改称した。平成23年９月には明治以来、100年以上も続いた公益法人制度の大改革に伴い、信頼度の高い公益社団法人へ移行。社会との調和を尊重し国内外に貢献する広い視野に立った。萩原会長は式辞のなかで、千辛万苦により築いてきた柔道整復師界の長い歴史を振り返り、各界のご理解とご支援に深甚なる感謝の意を表した。さらに国民の期待に応えられる柔道整復術の継承と発展に意を注ぐ決意を示した。

永年の功績と努力に花開く

858名が栄えある受賞

午前10時から橋本昇理事の司会で進行。記念式典に先立ち、日本赤十字社副社長の大塚義治氏が「赤十字社概観、社会保障雑感」と題して特別記念講演された。大塚氏は講演のなかで東日本大震災における日整会員の被災者救護および支援活動を取り上げ賞賛された。

記念式典は午前11時からラジオ番組のディスクジョッキー、ナレーターとして知られている加藤円夏さんの司会で、工藤鉄男副会長の開式の辞に始まり、国歌、日整会歌を斉唱した。

萩原正会長の式辞に続いて田村憲久厚生労働大臣は祝辞のなかで、昭和28年に社団設立以来、国民の保健衛生に貢献してきたことに感謝の意を述べられた。この後、表彰式に移り田村大臣により厚生労働大臣表彰が直接手渡された。最初に柔道整復業務功労者30名の名前が読み上げられ、代表して青森県の佐藤金一会員が受賞した。次に労災補償行政関係功労者38名の名前が読み上げられ、代表して東京都の工藤鉄男会員が受賞した。以上の表彰が行われた後、受賞者を代表して佐藤金一会員が謝辞を述べた。

続いて、会員外の方々に会長特別感謝状が贈られた。自社ホームページや報道機関を通じて柔道整復師、接骨院・整骨院の地位と知名度向上に尽力をいただいた功績により東建コーポレーション株式会社代表取締役の左右田鑑穂氏。日本伝統治療（柔道整復術）普及プロジェクトに対し貢献されたモンゴル国立健康科学大学のツェレンフー・ハグワスレン氏とダッシュツェレン・アマルサイハン氏、同大学付属医療技術大学のダルフ・ツェレンダグワ氏。モンゴル人に研修施設を提供された医療法人社団宏友会栗原整形外科院長の栗原友介氏、上青木整形外科院長の皆川英成氏、

中杉通り整形外科院長の林一徳氏。また、朝青龍関との交流によりモンゴル国に柔道整復術の普及活動のきっかけをつくられ、45歳で亡くなられた故・亀山実会員に会長特別表彰状が贈られ、真由美夫人に手渡された。

会長表彰は、日整の役員として会務に精励し、業界の発展に貢献された74名の会員に贈られ、代表して宮城県の豊嶋良一会員が受賞した。会長感謝状は、多年にわたる献身的な努力によって業界の発展に尽くされた101名の会員に贈られ、代表して北海道の土屋淳会員が受賞した。永年業務精励会員表彰は、40年以上日整会員として柔道整復師業務に精励し、地域社会の保健衛生に寄与された302名の会員に贈られ、代表して岐阜県の橋本佳幸会員が受賞した。会長特別感謝状は、開発途上国へ柔道整復術の普及活動のため、奉仕の精神をもって国境を越えた20名の会員に贈られ、代表して茨城県の河村亜希会員が受賞した。生涯学習高単位表彰およびボランティア高単位表彰は、連続４年間にわたり高単位を取得された285名の会員に贈られ、代表して長野県の内山富之会員が受賞した。以上の表彰が行われた後、受賞者を代表して豊嶋良一会員が謝辞を述べた。受賞者は総勢858名。

日本赤十字社へ寄付

すべての表彰式が終了した後、社団法人設立60周年を記念して寄付金贈呈を行い、萩原会長から日本赤十字社副社長の大塚義治氏へ寄付金200万円の目録が手渡された。引き続き自由民主党国会対策委員長の鴨下一郎衆議院議員、横倉義武（社）日本医師会会長（代読・羽生田俊副会長）の来賓各位が祝辞を述べられ、安倍晋三自由民主党総裁内閣総理大臣の祝電が披露された。式典は厳粛に執り行われ、松岡保副会長の閉式の辞により終了した。午後１時からは祝賀会を催し60周年の節目を祝った。

柔整サロン

挫折を乗り越え、走り続ける

～中西 麻耶さんに聞く～

聞き手　公益社団法人大分県柔道整復師会会長　加藤和信
司　会　公益社団法人大分県柔道整復師会広報部長　野田光広

大分県別府市にある明豊高校時代、軟式テニスに取り組みインターハイ・国体に出場、高校卒業後は地元大分で開催される“チャレンジ！おおいた国体”への出場を目指していた。国体開催の２年前2006年９月選考会の２日前、21歳のとき、仕事中の事故で右足の膝から下を切断。人生の目標を失う。そこから中西麻耶さんの戦いが始まった。

野田広報部長：本日はお忙しい中“柔整サロン”の対談に時間を割いていただきありがとうございます。各界の著名な方々との対談で、私どもの業界とのかかわりを伺うことで、「新しい発見が生まれ、業界の発展へ繋げる」ための企画です。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤会長：私たちは県内で整骨院・接骨院を開業しております。資格で申しますと「柔道整復師」ですが柔道整復師という職業をご存知でしたか。

中西麻耶：私は明豊高校のとき軟式テニスをしており、足首を挫いたときや肘を傷めたときに、別府の整骨院に通院し治療を受けておりました。でも整骨院の先生を「柔道整復師」ということは存じあげておりませんでした。

加藤：これを機会に柔道整復師をご記憶していただきたいと思います。私たちは整骨院・接骨院で関節などを傷めた患者さんの治療をしております。その治療技術は武術柔道の歴史のなかで生まれたものです。現在法律で、その治療術を「柔道整復術」と申しております。

中西：大変勉強になりました。私もアスリートなので、これからもお世話になることがあると思います。

加藤：由布市出身と伺っておりましたがテニスをされるために、別府市の高校へ行かれたのですか。

中西：由布市の庄内中学で軟式テニスを始めたのですが、もっと強くなりたくて、親に内緒で強豪の明豊高校テニス部監督に電話し、面接受験しました。全寮制で親元を離れましたが、テニスが好きだったので一生懸命頑張りました。

加藤：親元を離れての寮生活は寂しくなかったですか。

中西：意外と大丈夫でした（笑）。それ以上にテニスがうまくなりたかったですね。高校のときは、2008年地元開催の「おおいた国体」を目指しておりました。しかし卒業後、事故で右脚を切断しなければならないような大怪我をしたため断念しました。

加藤：義足になり障害を持つ身になられたわけですが、その後の立ち直りの速さに驚かされ感銘します。

中西：勤務中の現場で重さ５トンの鉄骨に右脚が押し潰されたとき、膝から下を切断するのか、神経を一つ一つ繋いでリハビリするのか決断が必要でした。私が医師にたずねたのはどちらが早く復帰できるかでした。
「切って義足にしたほうが､早く復帰できる」との思いが切断を決意させたのですが、両親からは当然反対され母親には泣かれました。

野田：テニスでの「おおいた国体」は見送るほかなかった。それでも中西さんは必死のリハビリに取り組み半年ほどでプレーを再開できるまでになった。アスリートとしての復帰までの道のりをお聞かせください。

中西：義足を着ければすぐにテニスができると思っていました。でも義足でのプレーは、そう容易なものではなく、最初はまともに立つこともできませんでした。やっと走れるようになっても、急な方向転換など必要な動きにはほど遠く、自分が目指した「アスリートとしてのテニス」はできず、結局諦めるしかありませんでした。

加藤：それで短距離走に転向されたのですね。それからの中西さんは、またたくまに記録を伸ばされ、わずか半年で100m と200m の日本記録を更新されました。転向のきっかけとなった出来事などあればお教えください。

中西：これまでいろんな人との出会いが私の進むべき道を示してくださいました。テニスという生きがいを失い、自分自身を見失っていたとき､義足を作ってくれた臼井さんが｢テニスは駄目でも、陸上競技ならば専用の義足があるよ」と教えてくださいました。この臼井さんは競技用義足製作の第一人者だったのです。

それをきっかけに前向きさが戻ってきたと思います。趣味としてのスポーツではなく、アスリートとしてまた挑戦したいとの思いが強く生じてきました。

加藤：競技歴わずか一年で北京パラリンピック100m 6 位入賞、200m で 4 位入賞という好成績、周囲は大活躍を称賛しましたが、中西さんは即渡米され、その行動に驚かされました。駆り立てた動機は何だったのですか。

中西：北京で「世界」を見てしまいました！世界の強豪たちの圧倒的なパワー、存在感に｢このまま日本で練習していては世界では通用しない」と思いました。

日本ではパラリンピックを身体障害者のスポーツ大会としか見てくれません。アメリカのオリンピック・トレーニングセンターでは、障害者アスリートもアスリートとして世界各国の優れたオリンピック選手と共に練習しています。

加藤：そこでロス五輪三段跳び金メダリスト、アル・ジョイナーコーチとの出会いがあるのですね。中西さんの熱意が通じ、ジョイナー氏の指導を受けることとなり着実に力をつけられていくわけですが、その過程でいろんなご苦労があったと思いますが、一番困られたことは何ですか。

【プロフィール】
中西麻耶（なかにしまや）　アスリート

大分県由布市出身　1985年6月3日生
陸上障害クラス　T（トラック）44
　　F（フィールド）44
走幅跳　4m96（アジア記録）
200m　28秒52（アジア記録）
100m　13秒84（日本記録）

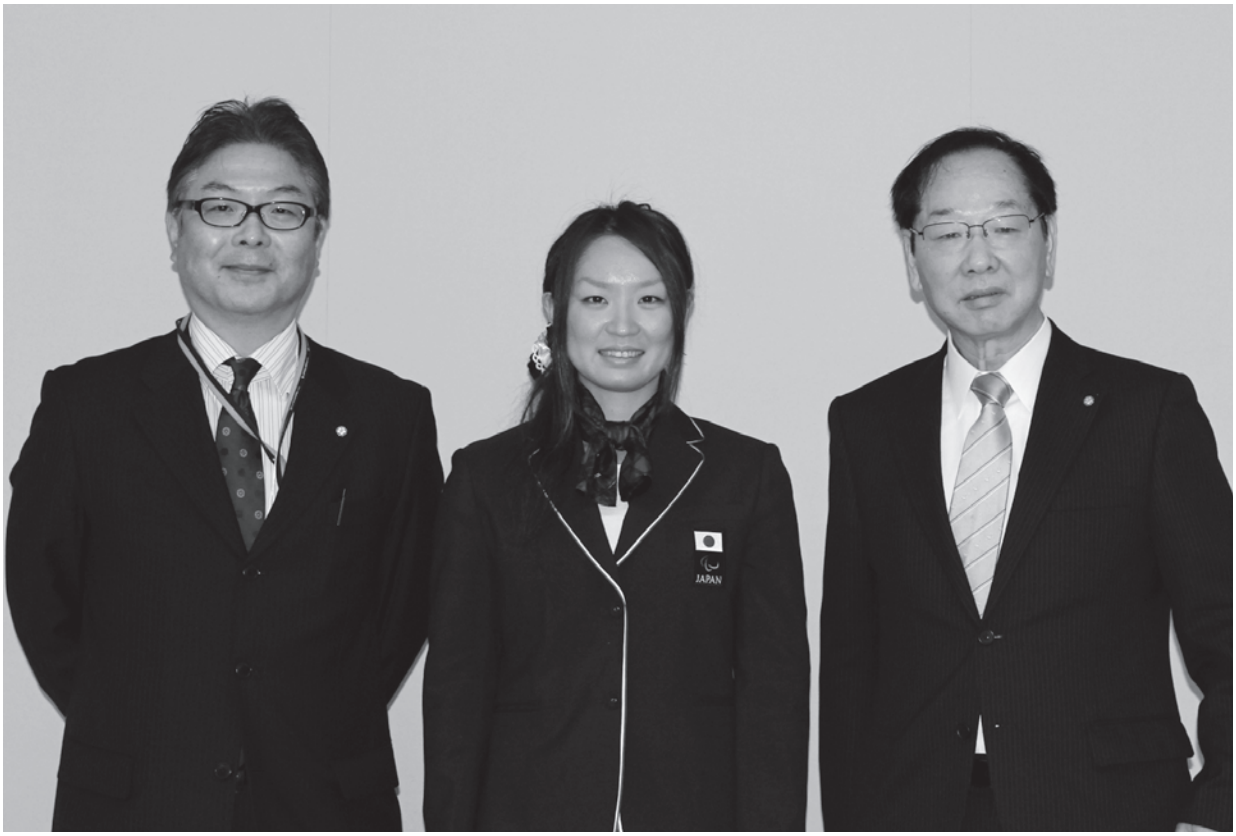
【当時中西さんは走り幅跳びにも挑戦、公式記録4m96は世界ランキング4位、練習では5m10の記録もあった】

中西：一番困ったのは活動資金難でした。事情を知らない人からは「お金があるからアメリカまでいって練習できる」とバッシングを受けました。日本のアマチュアスポーツ選手で資金にゆとりがあるのはごく一部で、ほとんどの選手は資金難です。ましてパラリンピックの選手にスポンサーとなってくれる企業はありません。活動資金を得るために全米各地を転戦し、賞金の出るレースに出場しました。ホテルに泊まる資金のないときは野宿をして大会に臨みました。しかし2011年の世界選手権には資金不足で出場できませんでした。
野田：2012年3月セミヌードカレンダーを制作販売され話題になりましたが、活動資金難解消のためだったのでしょうか。
中西：好評で発売3ヶ月で9,000部が販売されロンドン・パラリンピックの費用を何とか捻出できました。でも資金集めが目的のすべてではありません。素晴らしいカメラマンとの出会いがあったのです。「義足のアスリートとしてメッセージ性のある写真を…」と希望しました。それに答えてくれる作品でした。そこで発売することにしました。
加藤：義足のセミヌードカレンダーの制作販売、勇気のいることだと思います。無理解なバッシングもあったと思いますが反響はいかがでしたか。
中西：いろんな反響がブログに届きました。好意的なものから批判的なものまでさまざまありました。障害を金儲けの手段にしたとのバッシングもありました。でも私は自分の義足を隠して生きようとは思っていません。私の義足を見てください。おしゃれでしょう(笑)。

【紫色でおしゃれなデザインの義足】

今は花柄の義足を注文しています。私にしかできないことを楽しむことがあると思います。自分を障害者と思ったことはありません、むしろ義足を楽しみたいのです。
加藤：前向きな姿勢に頭が下がります。そのようにして臨んだ2012年ロンドン・パラリンピックですが、「調子の良いのと悪いのは紙一重、最高の日ではなかった。期待に応えられず、本当に申し訳ないと思います。でも結果には満足」と引退表明ともとれるコメントが新聞に掲載されましたが…
中西：ロンドン・パラリンピック後もいろいろバッシングなどありましたが、それでもスポーツをやめようと思うことができなくなって、自分はスポーツ、走ることが好きなことがわかりました。
加藤：では引退はないのですね。
中西：引退するみたいな話があったようですが、それはありません。

加藤：ではもう一度頑張られるのですね。
中西：帰国当時は、少しめげておりました。リスクはあるかも知れませんが、これからも「勇気を持って試みたいのです」。子供のとき、親から、勇気を持ってチャレンジすることを教わりました。「悔しいと思う気持ちが競技を続けていく上で重要なのかもしれません」。アスリートとしてこだわりの部分、子どものころから自分のやりたいことが、いま明確になっています。「健常者スポーツと障害者スポーツとの垣根をなくし、インクルーシブな（排除することのない）社会になってくれるように頑張りたい」と思います。
加藤：今日はお忙しい中ありがとうございました。私たちの業界がお役に立てることがありましたら、またご意見ご要望を伺いたいと思います。
中西：私たちアマチュアスポーツの選手で、不足しているものは資金以外にもたくさんありますが、指導相談を頼めるコーチが欲しいのです。技術分野だけでなくいろんな面で身近に話を聞いてもらえるケアコーチ的な存在です。私が高校時代、怪我をして通院した整骨院ではいろんな話を聞いていただきました。先生方には身近でスポーツ選手のケアを頼めるパートナー的な治療院であり続けてほしいと思います。こちらこそ本当にありがとうございました。
加藤・野田：本日は良いお話を伺えました。今後のご活躍を期待しております。私たちもスポーツ選手の側面的お手伝いを心掛けたいと思います。



左から野田広報部長、中西さん、加藤会長

輝ける未来への取り組み

《九州ブロック》

(公社)福岡県柔道整復師会

本会における最近の取り組みとしまして、以下の報告をさせていただきます。

【国際協力】

まず日整国際部への協力について報告いたします。現在、日整国際部で「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」事業が進められているところですが、本事業に関連して、「2012年度個別研修実施要項柔道整復術コース」が平成24年11月12日～12月７日までの間（公財）国際医療技術財団主催、日整協力のもと実施されました。

本事業の研修生として、カンボジア国の陸軍外傷病棟整形外科医であるNASI Said先生が選抜され、研修の一環として、福岡県において平成24年11月24・25の両日にわたり開催された第21回日本柔道整復接骨医学会学術大会で、『カンボジア国際セミナーと整形外科医の接骨医学研修―柔道整復術を世界へ発信―』と題したシンポジウムにシンポジストとして参加され、その後１週間の研修を行うため、福岡に滞在されました。

NASI Said先生は、日本伝統医療（柔道整復術）の研修を目的に来日されたのですが、本会は平成24年３月にカンボジアで開催された、「2012年カンボジア国際セミナー」に松岡会長はじめ３名が参加した縁もあり、お互いに親近感を持って迎え入れることができました。

▲ NASI Said先生（前列右から３人目）、研修先の先生方と共に

▲ NASI Said先生の研修

兵庫、大阪での臨床研修を経ての福岡入りでしたので、本会では柔道整復師養成施設の教育現場や医接連携の取り組みを学んでいただくべく、福岡医療専門学校、佐田整形外科、本会会員である曲渕整骨院で研修を行いました。

また、NASI Said先生は初めての来日ということでしたので、柔道整復術以外の日本伝統文化にも触れていただくため、菅原道真公で有名な太宰府天満宮の参拝や大相撲九州場所も見学し、非常に喜んでいただきました。

この研修を通じて、日本の伝統医療である柔道整復術や文化に親しんでいただき、本研修の目的であるカンボジア国における医療インフラの向上に、少し貢献できたのではないかと考えております。

【公益事業】

次に、本会が開催している公益事業における取り組みについて報告させていただきます。

本会は、「柔道整復師の資質の向上並びに柔道整復学及び柔道整復術の普及発展に関する事

業」として福岡県生涯学習研修会と福岡県整骨医学会を毎年開催しております。

１月に開催した生涯学習研修会では特別講演の講師として（公財）柔道整復研修試験財団代表理事である福島統先生をお迎えし、『卒前教育、卒後教育そして生涯学習～国民に求められる柔道整復師になるために～』のご講演を行っていただき、非常に好評を博しました。また、３月に開催する第21回福岡県整骨医学会では特別講演の講師に、日本柔道整復接骨医学会名誉会長の信原克哉先生をお迎えし「肩のスポーツ障害」のご講演をお願いしています。

先述の研修会や学会は、公益事業の一環として公共の広い会場において一般公開形式で開催しておりますので、我々の業界の未来を担う柔道整復専門学校の学生にも参加していただくことで、本会会員の先生方に混じって良質な勉強をしていただく、良い機会になっている取り組みだと考えております。

（広報員　勢木博之）

（公社）大分県柔道整復師会

本会は「輝ける未来への取り組み」として、「公益社団法人移行」がある。公益社団法人移行申請に向かって平成18年度清田洋一前会長（現顧問）のころから準備を始め、平成20年度臨時総会で承認され、加藤和信現会長にバトンタッチしたあとも、会長を中心に理事会で取り組んできた。他県の情報および情勢を鑑み、議論と試行錯誤を重ねながら、本年２月無事移行申請をし、県より３月に認定を受けた。また同時に進行していた「大分県柔道整復師協同組合」も昨年設立し、組合員の福祉増および相互扶助（共益事業）に貢献するために運用が始まった。

「学術・研修事業」で特筆すべきは、昨年で３度目となる解剖見学実習がある。人体解剖に疑問を持ち、基礎医学を学ぶことにより初心に帰り、日々の施術に活かすことができる。またそれを開催できるのも、大分大学医学部解剖教室のご高配によるところが大きく感謝にたえない。また定期の学術研修会や赤十字救命救護講習、柔道指導者安全教育講習会など数年前から公開

▲解剖見学実習

セミナーとして開催し、学生はもちろん社団外の柔道整復師や一般にも公開している。また昨年度は（公社）日整第41回九州学術大会が７月16日に、本県が６度目の主管県となり大分市で開催された。

「大分県整骨旗争奪少年柔道大会」は昨年で８回を数え本県少年柔道大会の代表的な大会の一つとなり、青少年の健全育成、柔道日本の底辺拡大のためにも毎年開催していく重要性を感じている。

▲第41回九州学術大会大分大会

「ボランティア事業」は本県災害ボランティアネットワーク連絡協議会で医療分野の一員として登録されており、昨年の九州北部豪雨での会員によるボランティア活動は記憶に新しい。また昨年の「べっぷ鶴見岳一気登山第25回記念大会」において、救護ボランティアの第１回から25回連続従事の貢献が認められ感謝状をいただいた。何事も継続することの大切さを痛感する。

最後に先月、本会が、伝統医療である柔道整復に対する信頼性を維持・確

▲赤十字救急法講習会

保し、また医療などに関する諸制度の円滑な運営に寄与するために、「―会員 HP 及び情報提供のガイドライン―(大分県版)」を作成した。本会 HP に掲載することにより、内外に、広告や HP 情報などの諸問題に自主的に取り組む姿勢を見せることができる。

このような取り組みを積み重ね継続することが、三本の矢ではないが、何本も矢を束ねることになり、本会員の未来のためにより良い方向に導いてくれることになると思う。

(広報員　野田光広)

(社)佐賀県柔道整復師会

我々の仕事は、物品売買とは異なり患者さんの口コミによる信頼関係の成就が大切。

医事法規にもうたわれているとおり制約があり、表向きの広告は意味合いが薄く、実戦で示すことが有効打となりうる。個人的にも対外的にも、会員一人ひとりの地道な努力が礎になることは言うまでもない。

技量の研磨・修得した技術を通して、地域の医療に貢献すること・会員相互の団結力・医科との関係構築・これらのことは、常々富永敬二会長が口にされていることである。

現在柔道整復師が一般社会における、より一層の信頼を勝ち得、認知度 UP の手段としてなさねばならないことは、社団の公益法人化であろうと思われる。佐賀県も、社会貢献への取り組みということで模索・進行に努めておりまた、このような構想の基、以下のような活動を遂行中である。

【東日本大震災に対する義援金活動の継続】

想像を絶する被害をもたらした災害（H23・3・11）からすでに 2 年、国を揚げての復興対策も思うように捗っていないのが現状。また、今年に入って仮設住宅では、ネズミの大量発生などの予期せぬ不測の事態などの報道も伝わってきています。

被災された方々のご苦労、ご心情はいかばかりかと察せられます。完全復興までには、多大の労力と時間を要するものと推測されるところです。

微力ながら、被災地の復興に活かされることを祈り、会の恒例行事の一つである中学生柔道錬成大会の際、受付けに募金箱を設置して義援金を募り、我々県柔道整復師会からの補足金との合計金額を佐賀新聞社の佐賀善意銀行へ預託しました。

【学術研修会】

学術部では毎年、秋季・冬季に学術研修会を開催しております。佐賀県の特徴として、県の医療の核であります、佐賀大学医学部整形外科の馬渡正明教授を毎年お招きして講演いただき、会員の資質向上に努めるとともに、地域の方々の健康に役立てています。また、今年の秋季学術研修会は公益社団法人に向けて「県民講座」として一般公開し、たくさんの県民の方々にご参加いただきました。

冬季学術研修会では、広く活躍されている医師や経験豊富な会員に講演を依頼し、私たち柔道整復師の生命線である骨折・脱臼の施術の研鑽を重点的に学術向上の勉強会を開催し、また各会員の学術研究や研究論文の発表の指導をし、柔道整復学、および柔道整復師の普及・啓発・ならびに柔道整復師の資質向上に役立てるよう努めています。

【保険部の活動（新人会員を対象にした円滑な保険取扱いへの取り組み)】

昨今の柔道整復療養費の適正化に向けた国の取り組みは大変厳しいものがあります。

柔道整復師免許取得者の増加に伴い開業者の増加、それによる療養費の増加が一つの要因で

▲▼学術研修会

はないかと思います。平成24年度は療養費の見直しの年となっておりましたが、厚生労働省：社会保障審議会医療保険部会の柔道整復療養費の在り方の見直しとして審議事項となりました。

本会としましては、既存会員への保険指導はもちろん、新入会員への指導も積極的な取り組みとして保険取扱講習会を開催し、『柔道整復師の施術について・療養費の適正化について・療養費にかかわる疑義解釈について・その他労働災害保険・生活保護法・自動車保険や厚生労働省よりの通知』などに対する連絡や指導をカリキュラムに沿って行うと共に、新規事業者に対しては、『施術録の整備・広告の範囲・施術の範囲・一部負担金徴収・領収書発行』などについて指導しております。柔道整復にかかわる療養費については、『柔道整復師は怪我に対し手当、応急手当ができることなどを踏まえ、被保険者がその傷病に対する手当』などを迅速に利用することを可能とする観点から、例外的に受領委任払いの実施が認められているものです。我々柔道整復師は、患者さんのために、またこれから将来に向けてこの制度を維持するためにも、より一層努力を惜しまず、未来に向けて取り組んでいかなくてはいけないと思います。

【県総合防災訓練】

佐賀県総括本部消防防災課が主催する、近年の訓練特徴は東日本大震災を受けて一変しました。

当会が活動する内容にもその変化が表れています。広範囲の災害を受けて、活動場所が数カ所の避難所を設けての訓練となり、出動会員も多く必要となってきました。幸いに協力いただける会員が多くなり、その協力的な参加に感謝されているところであります。活動内容は外傷の応急手当訓練と生活機能予防低下運動訓練を行っています。平成18年からこの訓練に参加していますが、恒例となった各市町保健師さんとの避難所でのペア活動は、双方共に良い学びの場となっています。以下は平成24年に開催された小城市の保健師さんよりいただいた感想です。

『5月の防災訓練においては、お世話になりました。一緒にさせてもらって私たちの勉強にもなりました。保健師の反省会を昨日行ったので、遅くなりましたがご依頼の訓練後の感想についてご報告いたします。

○訓練の場では、他の訓練参加者が何をしているか分からず待っていた状況なので、このような怪我のときは、このように対応します。という状況説明をしながらした方が分かりやすかったのではないかという意見がありました。

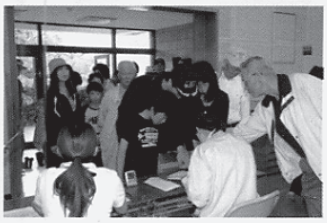
○本番に向けての課題としては、保健師がついて記録を行いましたが、口頭で言われた症状を書くには時間が足りず、専門用語が聞き取れなかったり、漢字が難しかったりして、忙しい現場では難しいと感じました。様式をチェック項目方式に変更して、書くよりチェックするようにすると短時間で正確に把握できるのではとの意見が複数ありました。災害が起こらないことを願いますが、いつ起こるか分からないので、私たちも要援護者の支援のあり方についても再検討したところです。今後もよろしくお願いします』

このような意見や感想をいただきながら今後も県民に貢献できる団体として、また各地域では存在感のある接骨院・整骨院として一つひとつを大事に取り組んでいきたい。

災害に備えて　佐賀県総合防災訓練

ビル火災の避難訓練の様子

竹を使った簡易担架作り体験


左＝旧大字松隈地区の避難者受付の様子
下＝柔道整復師会による応急手当の様子

5月22日（日）、東脊振小学校体育館、東脊振小中学校グラウンドで、佐賀県総合防災訓練が行われました。

昨年の永山地区で起きた土石流災害を教訓に、旧大字松隈地区を対象とした避難訓練等を行いました。体育館の中では避難所設置運営訓練や、佐賀県柔道整復師会による応急手当訓練、鳥栖みやき消防署指導によるAED訓練や簡易担架体験、佐賀県聴覚障害者協会及び三田川手話の会により手話体験、さらに佐賀地方気象台による緊急地震速報対応訓練などが行われました。

あいにくの雨で、グラウンドで行われた種目はビル火災を想定した訓練、はしご車の体験訓練のみとなりましたが、約200人が訓練に参加しました。

【救護ボランティア（接骨・整骨ボランティア委員会）活動】

県柔道協会依頼の県大会レベルの柔道大会に、当会の救護ボランティア委員会が活動するようになって10年が経過しました。参加した当会会員数はこの10年間で延べ314名にも上ります。

参加会員のご理解あっての活動に深い感謝とお礼を申し上げます。この参加人数に裏打ちされた活動は組織として今後も発展していくことと確信をしています。

また、佐賀新聞社主催のさが桜マラソン（ハーフ）大会では、スポーツ外傷の応急手当とコンディショニング・ケアも行った。平成25年４月７日からはフルマラソンとなり現在その準備において、県文化・スポーツ部スポーツ課より２名、佐賀新聞社より１名、計３名の担当者の方においでいただきこれまでの活動に対して感謝の意を表され、また今年は、２会場での選手たちへのボランティア活動を依頼されました。

このように着実に我々の活動が支持されつつあることは、組織活動の戦略が確立された10年目の今とこれからの未来と社会に向けて、外傷治療の専門家として積極的に前に出て社会貢献することを期待されている証と捉えています。

【さが桜マラソン大会に救護ボランティアで参加】

佐賀県における一般県民の参加できる最大のマラソン大会で、最近では参加人数が段々増え、今年度は8,000人を超す予定だそうです。

この大イベントに救護ボランティアで参加することにより、柔道整復師の認知度を高めると共に、県民の健康増進に貢献することの目的を高めようと意図するところです。

昨年までは、最も長い距離でハーフでしたが、今年からはフルマラソンコースも設定され、大会そのものがさらに知名度 UP となることも視野に入れ、我々も前回までの救護所１ヶ所から、今回より増設し２ヶ所で対応することにして増員を計画しております。また、救護所の隣りには地元地区の方々の水分補給所もボランティアで設置され、時間待ちや後片付けの合間には、ホット一息したところで施術の話しにも花が咲き、お得意の佐賀弁で和気藹々とした交流ができ、知名度の向上に繋がるものと思われます。

以上のように、社団でできる範囲ではありますが、柔道大会をはじめ諸々のイベントに参加することにより、我々の施術を多くの人々に見ていただき「柔道整復師とは」の知名度 UP のため、会員一丸となって対処しております。

（広報員　小嶋利博）

（社）長崎県柔道整復師会

本会は「輝ける未来への取り組み」として、学術研修会や保険研修会を開催し、また公益活動を行うほか、ホームページにて会の紹介や公開講座の案内、会の活動を発信しています。

【会員の施療技術力の向上】

県、支部で年間 6 回の学術研修会を開催しています。医師・医療機器メーカーを講師にお招きして臨床に密着した研修会を開催し、施療技術向上を目指しています。また会員による論文発表も行っています。各会員も各種研修会（アスレティックトレーナー協議会など）、勉強会へ積極的に参加しています。学術研修会、税務講習会は公開講座とし、一般の方々にもホームページにてお知らせしています。

【円滑な保険制度達成への取り組み】

全会員に対し県、支部で年間10回の保険研修会を保険部長、 3 支部長を中心にカルテの整備、請求の問題点について詳細な説明を行っています。

開業 2 年未満の会員に対しては、年 1 回の新人研修会を開催しています。講師に全国健康保険協会業務部長をお招きし、柔道整復師・保険医療の現況、適切な施術などを主な内容とした貴重なご講演をいただいています。また会長、副会長、保険部長、 3 支部長が各会員に施術録記載などの指導も行い、適正な保険請求ができるように取り組んでいます。

【公益活動】

青少年の心身の健全な育成に寄与する目的で主催してきた柔道大会、柔整旗大会も男子が31回、女子が28回を迎え、多数の有望な選手も育ち関係者から高い評価もいただいています。大会時には学術部を中心に救護活動も行っています。

その他、支部単位で1,505名が参加する平戸ツーデイウォークや、中学総合体育大会柔道の部にボランティアで参加し、柔整マッサージ、ストレッチ、テーピングなど救護活動を行っています。健康フェスティバルにも参加し痛みの相談、クイズ形式での正しい処置の仕方などをアドバイスしています。柔道部としては一般の方々に呼びかけ、柔道の指導を定期的に行っています。個人でも各種スポーツのトレーナー、

▲柔整旗開会式

▲柔道大会で救護する会員

▲新人保険研修会

指導者として活動を行っています。本会としても、ボランティア活動を積極的に推奨しボランティア活動費を計上し、参加した会員に対し補助を行っています。公益法人取得に当たり公益活動を盛んに行い国民に益を与え、会に対する信頼の確保が必要と思われます。

【その他】

ホームページにて本会の活動、公開講座の案内などを積極的に発信し公益性をアピールしていきたいと思っています。

柔整学校の卒業生も急激な増加となっていますが、本会は長崎県の柔整学校とお互いの理解を深めるため、卒業式の挨拶で（公社）日本柔道整復師会、本会の説明を行い、(社)長崎県柔道整復師会会長賞として最優秀の生徒に賞状、記念品を贈り表彰しています。会員の親睦のため３支部柔道大会、スポーツ大会（ソフトボールやボウリング)、新年会を開催しています。

（広報員　岩永福則）

(公社)熊本県柔道整復師会

【県民の健康維持増進への取り組み】

・防災協定

平成24年12月12日(水)、当会と蒲島郁夫県知事とによる防災協定締結をいたしました。東日本大震災ボランティアに６名、阿蘇豪雨災害ボランティアに延べ52名、JIMTEF の講習会に４名当会会員が出席いたしました。その経験からも組織づくり、他業種団体との連絡網など、この県との防災協定は被災者支援の立場から大変有意義であると思います。

・県民公開講座

平成24年１月22日(日)、マラソンのアスリート瀬古利彦氏をお招きし、第２回県民公開講座を開催いたしました。約300人の一般県民の方が聴講されました。

３部構成とし、２部では、陸上競技におけるケガや痛みへの対応として、当会会員２名が会場の方をモデルとして施術の実演をいたしました。また、３部では当会の賛助会員であるスポーツ用品店から、「インナーおよびシューズの選び方」の講演をいただきました。この開催に先立ち、地元県民テレビに開催告知を流しました。

柔道整復師がどういったことを行うものなのか、市民を巻き込んだ有意義な広報活動ともなりました。

・熊本城マラソン救護などボランティア活動

平成24年２月19日(日)、第２回熊本城マラソンで救護活動し、お陰様で約700人のランナーをサポートすることができました。

ゆるキャラグランプリ「くまモン」を県より認可をいただき、ボランティア活動の横断幕を作成した際に、当会作成の「くまモン」も掲載いたしました。この活動について地元熊本日日新聞でも取材していただき、大きな写真と共に掲載されました。

・当会主催の少年柔道大会

平成24年４月８日(日)、第３回熊本県小学生学年別柔道大会を行いました。700人を超える参加となりました。この大会は10月の日整全国少年柔道大会の選考会でもあります。

・その他

【柔道整復師の資質向上】

・臨床研究会

平成24年６月16日(土)、平成24年12月８日(土)の２回行いました。

「腰痛」など、テーマを決めて会員同士が講師となり実技も交えて勉強していこうというものです。お互い分からないところなどを繰り返し学習いたしました。日頃の自分の悩み相談や、ほかの施術法の学習など大変有意義なものでした。

・接骨医学会参加への取り組み

平成24年11月24日(土)～25日(日)、福岡市にて開催の第21回日本柔道整復接骨医学会学術大会に参加しました。多くの会員に参加していただくために、今回は交通費の助成を行いました。九州初の開催ということもあり、こういう機会を多くの会員が経験することは非常に大事なことだと考えます。

・柔道救護

熊本県柔道協会などの依頼に応じ、年30回ほど救護担当として参加しています。経験豊富な会員と入会して日の浅い会員との「２名体制」で参加しています。骨折や脱臼など、外傷の応急処置について救護経験を積んでもらっています。

【地区懇談会】

毎年夏季に、熊本県を３地区に分けて行っています。それぞれ、保険講習会の後懇親会を開催しています。胸襟開いてお互いわからないことを話し合い、親睦を深める場となっています。現在、整骨院が乱立する中、横のつながりを強めることは業務を円滑に行うためにも大変有意義だと思います。

・その他

【柔道整復師療養費の取扱い】

・保険講習会

会員を対象として年６回程度保険講習会を開催しています。

・保険講習会補講

講習会出席の少なかった会員、内部審査会で返戻照会が多かった会員および新入会員を対象として保険講習会補講を行います。

・新人保険講習会

会員入会の際、随時行っています。

・内部審査会

月２回、当会において全申請書について定期的に審査を行っています。保険者や公的審査会において照会を受ける可能性があるものについて事前の確認行為でもあります。

・柔道整復療養費の広報活動

地元熊本日日新聞に柔道整復療養費の取扱いについて掲載いたしました。これは、平成24年

3月発厚労省に基づくもので、特に療養費の取扱いができる場合の項目「骨・筋肉・関節のケガや痛みで、その負傷原因がはっきりしているとき」とできない場合の項目「柔道整復師の判断によるとき」については、保険者への広報活動の中で記載されていないことが多いので、これらは特に記載していただきました。

（広報員　井手栄治）

（公社）宮崎県柔道整復師会

【IT 委員会報告】

平成19年、本会で一次試験的に行いましたWeb 会議をその年より段階的に理事会で活用し、より時間が自由に使える無料のサーバーを利用して現在では毎月一回ある理事会を行っております。Web 会議以前には各理事のスケジュール調整をし、施療終了後、遠くは2時間かけて会の会館まで集合し、約3時間位の会議を行い深夜に解散ということも多くありました。その時間と体力的な問題などを考えWeb 会議を積極的に活用して参りました。そのメリットとしては移動による負担、経費削減、事故の防止、会議時間の短縮、円滑な会議運営による各理事の要約した討議などが挙げられます。デメリットはサーバーの不具合などで会議に参加できない議題の深い審議、見えない所での会議以外の他の仕事を行う議事録の録音の難しさ、集中してないなどありますが、これはごく稀で総じて会議は円滑に行われ理事会はよりよく運営されています。

今後、ペーパーレス、ソーシャルを利用することが我々の業界も多くなると思いますのでWeb 会議は今後必要なツールになってきます。

【学術研修会】

平成24年度から、公益法人移行に向けて本会では、県民により良い医療を提供できる人材育成の場として、柔道整復術に必要な技術、特に骨折・脱臼の整復と固定について、実技を中心とした学術研修会を開催することになりました。「第1回学術研修会」は、茨城県から東京有明医療大学非常勤講師の根本恒夫先生をお招きして平成24年11月18日に開催しました。正会員、準会員合わせて100名ほどの参加となりました。「橈骨遠位端骨折及び肩関節脱臼の整復･固定」をテーマに前半は講義、その後3人一組になり骨折・脱臼の整復法・固定法の実技を行いました。臨床経験豊富な柔道整復師はその技術の再確認と新たな方法を習得し、経験の浅い柔道整復師は貴重な柔整術の実技経験の機会を得たようです。特に若い正会員や準会員が多数参加し、実技の場面で、根本先生に積極的に質問をしたり、指導を受けながら熱心に整復・固定を行っている姿が数多く見られました。今回の研修会の目的である人材育成に役立ったと思われます。今後も継続して実技を中心とした学術研修会を実施していきたいと思います。

【合同保険研修会（公益事業）】

本会では、受領委任制度の適正かつ円滑な運営を図るために、毎年、制度の趣旨徹底を目的として合同保険研修会を開催しています。

本研修会は、公益法人移行に伴い、当会会員以外の柔道整復師にも公開しています。

講師として、宮崎労働局労災補償監察官、九州厚生局宮崎事務所医療指導監視監査官、宮崎県福祉保健部医務担当官、全国健康保険協会宮崎支部業務グループ長、宮崎県国保連合会審査課長を招き、それぞれの立場から専門的講義をしていただきます。

公益社団法人として、会員のみならず非会員にも公開することで、柔道整復師全体のレベルアップと法令遵守のもとの自由と責任を自覚する研修会とし、公益社団法人としての責任の一端を果たすものです。

また昨今は、柔道整復師に対する批判もありますが、自らに厳しく謙虚に、今後とも患者中心の施術と適正な請求を徹底し、個人の発展と組織の成長に寄与する研修会となるように、今後とも内容の充実を企画しています。

なお、本研修会は、当会会員は全員参加とし、欠席者については後日ビデオ補講も実施しています。

（広報員　横山昌裕）

(公社)鹿児島県柔道整復師会

本会では、公益事業として少年柔道学年別錬成大会の開催や、各種スポーツ大会の救護ボランティア活動などを行っています。その他本県では未来への取り組みとして、介護認定審査会への参入をしており、経緯と活動状況を報告いたします。

【鹿児島県の介護認定審査会委員活動状況】

鹿児島県で柔道整復師が介護認定審査会委員として活動を始めたのは故林岩男会長時代の平成15年４月から阿久根市徳留康雄会員と出水市有馬由丈会員からでした。

行政に柔道整復師を審査会委員として採用の要望書を提出した際に、介護保険法のケアマネ（介護支援専門員）の資格を求められましたが粘り強く交渉した結果、柔道整復師の資格で参加が可能となりました。

介護認定審査会は市町村の付属機関で、要介護認定の審査判定を行います。審査判定するために３～５名の委員から構成された合議体が複数設置されています。

委員は保健・医療・福祉の学識経験者で職種は医師、歯科医師、柔道整復師、薬剤師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士、訪問介護員、施設関係者などです。任期は２年間で再任も可能です。非常勤特別職の公務員であり、守秘義務が課せられます。

平成25年１月現在、16名の会員が市町村長から委嘱を受け鹿児島県全支部で介護認定審査会委員として参入しており、中には合議体長をしている会員もいます。委員の経験者と現役とで延べ25名となり、九州では鹿児島県だけが介護認定審査会委員として活動しています

柔道整復師が施術の中での経験や知識で委員としての資質があり、高齢者を専門家が見る目と違う目で見ることも大事であり、行政からも期待されている職種で更新時期に少しづつ委員が増えている状況です。

活動のメリットとしては、介護関連の業種との交流、医師との交流やほかの業種に柔道整復師の知名度を上げることができること、独居老人の介護保険利用方法について相談に乗れること、行政とのコミュニケーションが良くなるなどがあります。デメリットとしては、資料の読み込みに時間がかかること、審査会は地域によって平日の昼や夜に行われ、昼の部では施術時間内にあるなどです。

鹿児島県では年１回保険部主催で委員のスキルアップ目的で勉強会を開催しています（＝写真)。

勉強会の内容は、まず始めに各合議体（グループ）で資料を審査します。１資料に１議長を立て審査します。次に各合議体の審査判定結果を発表してもらい、最も意見の分かれた資料について全体審議します。最後に各地域の審査会状況を各委員に報告してもらいます。

現在、柔道整復師を取り巻く環境は年々厳しくなって来ていますが、医療の一旦を担う我々は地域で必要である旨の啓蒙活動の一つとして、介護認定審査会活動を通じて介護保険制度へ貢献し、地域のネットワークにかかわれるようにほかの職種や行政にアピールし、柔道整復師がますます発展するように活動していくことが必要であると思います。

終わりに、公益法人として当会の活動が認められ、他県でも同様に介護認定審査会に参入できるよう取り組んでいただきたいと思います。

（広報員　福永郁雄）

(社)沖縄県柔道整復師会

本会では、我々柔道整復師の認知度を向上させるための活動を常に考え、各種スポーツ大会への整骨トレーナー派遣やボランティア活動、または、県医師会を始めとする保健医療関係団体と連携を取り、県民の健康福祉の向上を目的として行われる県民健康フェアなどに参加し、柔道整復術の普及啓発事業活動を積極的に展開している。

【救護・ボランティア活動】

本会では、会員を整骨トレーナーとし、県内で行われる各種スポーツ大会に派遣している。特に大きな活動では、12月に行われるNAHAマラソン（参加者２万５千人）と２月に行われるおきなわマラソン（参加者１万５千人）があり、各会場には整骨ブースを設けていただき早朝７時から、スタート前のテーピングや障害予防などの指導を実施。

また、午後からは、完走したランナーにアイシングやストレッチを実施している。このマラソンボランティアには、県内にある２校の柔整専門学校の生徒を受け入れ、事業部を中心にテーピング講習会を開催し指導も行っている。

柔道は、小学生をはじめ高校生などの大会へ整骨トレーナーを派遣、本会主催の少年柔道大会では、優勝チームの全国大会への派遣も行っている。

ほかには、ママさんバレーボール大会やレディースバドミントン大会などにも整骨トレーナーを派遣し活動を行っている。

【県民健康フェア】

平成24年８月19日(日)、県下の保健医療関係17団体で構成する沖縄県医療保健連合（通称：なごみ会）が健康おきなわ21の基本理念「県民が健康長寿を維持継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である」に基づき、県民の健康づくりについて専門的な立場から県民の健康福祉の向上を図ることを目的に県民健康フェアが開催された。

各団体のブースにおいて、ポスター展示、各種健康相談や指導、骨密度測定、血糖値検査などの各種検診、体験コーナーを企画するとともに、野外ではドクターヘリやドクターカーなどの展示が行われた。

本会のブースにおいても、ボランティア活動風景などのパネル展示､テーピング実技､整(接)骨院のかかり方相談コーナーを設けたところ多数の来場があった。

県下の保健医療関係17団体とともにこのような活動ができるのは、我々柔道整復師の業務を多くの方々に認知していただける絶好の機会ではないかと実感する。

平成25年度は、８月18日(日)沖縄コンベンションセンターにて開催が決定、当会も継続し参加活動に向け取り組んでいきたい。

（広報員　國吉正人）

※

私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています。

健康づくり（公開健康講座）、スポーツボランティア 防災・救護・介護など

公開健康講座

北海道

第27回北海道柔道整復専門学校 卒後教育講演会

平成25年２月17日（日）、午前９時30分から北整会館４階大講堂において、標記講演会が開催されました。西巻英男先生の司会で、はじめに石川紀道名誉教頭より、各講師が紹介され挨拶しました。その後、公務で上京中の萩原正和校主に代わり、小池良二副会長は「今日一日共に勉強して、明日の仕事に繋げていきましょう」と挨拶しました。続いて近藤浩学校長は、「医学部でもこのような講習会は非常に重要視されており、受講が義務付けられています。柔道整復師もこのような研修会を行っていることは非常に大切なことであります。本日は一緒に勉強しましょう」と述べました。終わりに五十嵐一議同窓会会長は、卒業生のため講習会に行っていただいていることに謝辞を述べられ、更に「このような研修会を受講して知識を高め、社会に貢献してゆける医療人となりましょう」と挨拶しました。

講演１「通所型二次予防の結果について」
―平成23年度の高齢者筋力向上トレーニング事業―」
公益社団法人北海道柔道整復師会理事
学術部長　佐々木辰雄先生

はじめに江別市にて通所型二次予防に参加している７委託整骨院で取り扱った事業として、

▲佐々木先生

61名の特定高齢者を対象に行われた運動器疾患、主観的健康観、運動能力テストの結果報告をしました。方法は実質対象者54名（体調不良など途中中止者７名）、年齢65～86歳、男性10名・女性44名に対して、介護支援センターからの基本情報をもとにトレーニング実施計画、運動機能向上プログラムを作成して利用者を評価し、運動能力評価として事前に握力･開眼片足立ち･5m 最大歩行・Timed up & go を行い、事後とのスコア比較や結果などを述べました。

考察として、女子は全国平均より高い集団で男子は平均的であり、「運動強度の目安と運動量」の第３期「ややきつい」は踏み台昇降のみで、ほかは「らくである」を目安に行うことで、定期的に無理なく楽しく運動することで十分な成果が得られたと説明しました。

まとめとして運動器疾患のある、ない利用者ともに機能向上トレーニングを行うことで運動機能は改善され、今後向上した運動機能の維持を目指すには、地域サークル活動、公民館活動や老人クラブなどに積極的に参加するよう支援が必要であり、この事業は元気で長生きな健康寿命を延ばすことに貢献する意義が高いと述べ

ました。

続いて「おうちエクササイズ・機能訓練でイキイキ生活」と題して、会附属の専門学生主体で行われた一般向けの「柔整カフェ」については、前半は整骨院業務の説明、江別市で行われている介護予防事業、3ヵ月間行ったストレッチ、バランス訓練、筋トレなどの運動で十分な効果があらわれたこと、後半は参加者に実際に体験してもらい、その結果を運動器チェックリストにて判定することや二次予防の説明がなされ講演を終えました。

講演2「胃瘻をめぐって」

北海道柔道整復専門学校講師
高倉昌之先生

人間は年を取り老化が進むといろいろな変化が起きます。食と排泄について、人は生きるため食べ物を消化し、その栄養成分や水分を吸収する必要があります。腸に病原細菌や毒素が入り異物と認識されると腸管免疫系が働くため、口から食べることができなくなる。この免疫系に問題が起きてきてくることを説明され講演がはじまりました。さらに食べ物の消化吸収ができなくなると気力、筋力が低下し褥瘡ができやすくなります。

また感染症にも罹り易くなると述べ、栄養補給の方法として、消化管の状態が保たれていなければ静脈からの栄養に、消化器官の機能が保たれていれば誤嚥の可能性を考慮し経鼻・胃ルート、経鼻・幽門ルート、胃瘻造設、空腸瘻造設から選択することを説明しました。

経管栄養法の利点は消化管機能を促進し、全身免疫状態の改善につながるという利点があるが、反面高カロリーによる肥満、糖尿病、脂質異常などの原因にもなる可能性があります。対処として終末期の患者さんは600kcalくらいでも生命の維持はできることが多く理論的なカロリー量については一考を要するところであると、問題点も提起しました。

経管栄養法には
①経鼻胃腸管
②咽頭瘻
③経皮食道胃管挿入術（PTEG）
④胃瘻（PEG）

▲高倉先生

⑤空腸瘻
があり、経管栄養が必要になる病気・病態として、機能的・器質的な摂食・嚥下障害、誤嚥性肺炎、炎症性腸疾患等、神経系の疾患・心理的原因をはじめ多くの疾患があると述べました。

胃瘻とは胃と体表が瘻孔（穴）によってつながっている状態のことで、使用されるカテーテルの型と内視鏡下で行う胃瘻造設術をスライドも交え紹介しました。

経鼻胃管の利点と欠点としては、挿入が簡便である半面、挿入状態で違和感があり、抜けると重篤な事故につながる危険があるが、これに比べ胃瘻は安全性が高く、抜けにくい、違和感が少ない、誤嚥が起きにくい、リハビリテーションが容易、在宅介護が可能で免疫機能が高まりやすく、チューブ交換は4～5カ月で良いことなどが挙げられる。

反面周囲の皮膚がただれる、介護施設へ入所が拒否されたり、栄養剤の逆流などのデメリットもあると説明されました。患者・家族にとってより良い生命予後のため65％が現状を肯定していることも紹介しました。

しかし、医療スタッフ側の立場として食事介助の負担減のため、介護の手間がかからない、経口で食べられないより栄養が取れる胃瘻を作った方が退院させやすいなどの風潮があることは否めず、これは問題点の一つであり、2010年のある調査結果では15％の医師しか自分には経管栄養を望んでいない結果が出たことも引き合いに出しました。

さらに一定期間後に経口摂取に戻すのが理想であるが、回復が見込めない高齢者にも用いられるようになったこと、胃瘻で本人の意思が保たれ、生活のQOLの向上・満足が得られるのなら良いが、意識のない高齢者に用いられる例も目立つとも述べました。

2060年の推計で日本の65歳以上の人口は40％となり、日本の特徴は75歳以上の後期高齢者が多く、寝たきり・認知症・虚弱高齢者の急増が見込まれる。一方アメリカでは死を間近にした患者は空腹やのどの渇きは訴えないことから、人工的な栄養投与は行わない傾向が高まっており、さらにヨーロッパでも胃瘻栄養は批判的かつ制限的なアプローチが必要とし、積極的に推進はしていないと他国の現状も紹介されました。

日本老年医学会の「立場表明」の骨子として、すべての人は最善の医療を受ける権利を有するが、経管栄養や人工呼吸器などの適応は慎重にと述べられるようになり、終末医療では本人の意思の尊重、苦痛の緩和とQOLの維持・向上を中心に行うべきであるとしていることも説明しました。

終わりに、石飛幸三先生の「老衰のために体が限界に来て、徐々に食が細くなって、ついに眠って静かに最後を迎えようとしているのを、どうして揺り起して、無理矢理食べなさいと口を開けさせることができましょうか」という言葉を紹介・問題の提起をされ講演を終了しました。

講演３「股関節外科の現状」

医療法人社団我汝会さっぽろ病院院長
春藤　基之先生

はじめに人工関節置換術（THA）では、その利点（目標）として徐痛、支持性向上、可動域改善、脚長補正、歩容（容姿）改善などについて説明しました。また入院前から退院までの流れとして厚生医療の手続き、入院、MRI・CTや骨密度などの検査、手術、リハビリテーション、術後10日で退院までの過程と償還価格や治療負担額などについても詳しく説明しました。

その後、術後の禁止事項、術後脱臼の注意点、術後のスポーツ活動などについて述べ、両側（一期的）人工関節置換術ではいくつかの症例をもとに術前・術後の歩行比較を動画にて説明しました。まとめでは疼痛、日常生活上の不便さが手術適応のポイントとし、インプラントの進化により耐久性・可動域の向上、術後制限がほとんどなく、低浸襲化、治療期間短縮化を挙げました。

▲春藤先生

続いて寛骨臼骨切り術（CPO）では、手術の適応（対象）としてCE角10度未満、球形骨頭、可動域良好、前初期関節症、年齢約50歳までなどが説明され、手術のタイミングは軟骨が減る前の早い時期が良いと述べました。手術に関しては従来の経大転子法（RAO）の問題点として皮膚切開大、入院長期、筋萎縮残存を挙げ、現在の寛骨臼骨切り術（CPO）の進入法では低浸襲、治療期間短縮、後療法として術翌日より歩行許可（荷重制限なし）、術後２週で退院（T字杖・松葉杖）、両上前腸骨棘内縁間距離については正常例と臼不全例の比較を説明しました。まとめでは臼蓋形成不全でCE角≦10度はよい適応とし、軟骨が減らないうちに手術、CPOでの治療期間短縮化を挙げました。

その他の疾患・症例では、股関節の症状として時期、拘縮、痛みの部位が述べられた後、変形性股関節症、股関節周囲炎、恥骨骨折、急速破壊型股関節症、大腿骨頚部疲労骨折、一過性大腿骨頭萎縮症、最近注目されているFHI（大腿骨：臼蓋：衝突）などについて症状や治療を

詳しく説明されました。最後に我々柔道整復師との医接連携を述べました。

最後に小池良二北整副会長のお礼の言葉で有意義な講演会が終了しました。

（広報員　錦川正八）

茨城県

スポーツテーピングの特別公開講座

本会主催［茨城県教育委員会・（公財）茨城県体育協会後援］による「スポーツテーピングの特別公開講座」が２月24日、水戸市見川町の水戸市総合運動公園体育館で開催された。これは、学校（中学校・高校）運動部活動指導者やスポーツクラブ指導者、大学生を対象に行われたもので、約200人が参加して講義や実技指導を受けた。

指導にあたったのはJ1大宮アルディージャのコンディショニングアドバイザーなど各種のスポーツトレーナーを務める大隈重信氏。まず、テーピングに関する概要を説明した後、テーピング実技に移り、各グループ20人ほどに別れた参加者は、大型スクリーンに映し出された実技映像を見たり、サポート指導員から説明を受けながら各部の傷害におけるテーピング方法を学んだ。

大隈氏は各ブースを回りながら、テーピングのポイントや注意点などを指導。各種スポーツにおける傷害で応急的な処置として現場で重要視されるテーピングなだけに、参加したスポーツ指導者は選手の痛みに効果的なテーピング方法を学ぼうと質問をしたり真剣な顔でテーピング実技に取り組んだ。

▲スポーツテーピング実施指導

（広報員　荒井健吉）

千葉県

第４回県民公開講演会

平成25年３月３日（日）、JR千葉駅近くの京葉銀行文化プラザにおいて、本会主催の県民公開講演会が、（公社）日本柔道整復師会協賛・千葉県および（社）千葉県医師会後援により開催された。

当日一般市民が多数来場し、現代人の健康に対する関心の高さをうかがわせた。

福島義男生涯学習委員の司会で進行、田中徹二副会長の開会の辞があり、主催者挨拶で岡本和久会長は「大勢のご参加誠にありがとうございます、私どもは柔道整復師という職業で、皆様の地域にある接骨院・整骨院として皆様の健康に携わっております。その中でも唯一全国組織の公益社団法人である日本柔道整復師会の一員です。そしてスポーツ大会での救護ボランティアや、介護関連の事業でも皆様の健康福祉のお手伝いをさせていただいております。何かございましたらお近くの私どもの施設にご相談ください」と挨拶された。

続いて椎名晴彦生涯学習委員長より講師紹介があった後講演へと進んだ。

講　演

「きれいな社会の落とし穴
～アトピーからガンまで～」

東京医科歯科大学名誉教授
藤田　紘一郎先生

アレルギー病とは、アトピー性皮膚炎、気管支ぜんそく、花粉症などIgE抗体が関与する疾患群をいいます。このアレルギー病が最近急増しています。しかし、この病気は30数年前にはなかった病気です。本日は、アレルギーやガンに関する免疫力と自然との

▲講演する藤田先生

共生・長寿社会の生活環境との関連について話してみたいと思います。

当初私は寄生虫の研究をしていましたが、さまざまな分野での研究と保健行政の努力の成果で、日本から寄生虫が駆逐された結果、多くの大学で寄生虫学の学科や講義が消えていきました。そこで私は次に熱帯医学の研究にシフトしました。

その研究でインドネシアのカリマンタン島に行ったとき、驚くべき事象を再発見することになりました。

＊回虫がアレルギーを防ぐ

排便の流れる川で子供たちが水遊びをし、その水で炊事や洗濯をしている。実際、調査すると全員が回虫にかかっている。ところがですよ、われわれからみたら、そんなバイ菌だらけの汚い生活をしているにもかかわらず、子供たちの表情はみんなはつらつとしていて、肌もつやつやと黒光りしている。その上、アトピー性皮膚炎、花粉症、気管支ぜんそくなどのアレルギー疾患の人がどこを探しても一人もいない。当時、日本の子供たちにアレルギー疾患が増えだし、奇病として注目され始めたころです。「これは回虫がアレルギー抑制に関係しているのでは」と直感的に思ったのです。虫の知らせとでもいいますか（笑）。

それで一生懸命に寄生虫をすりつぶしては研究を続けました。結果、回虫の持つアレルギー抑制物質というのを解明したわけです。

＊超清潔志向は〝ビョーキ〟です

現在、寄生虫の排除だけでは気が済まず、テレビの画面からは湯水の如く殺菌・抗菌・除菌・防臭グッズのコマーシャルが流されています。しかしそんな完全無欠の暮らしを営んでいるにもかかわらず、国民の30％、９才以下の子供については実に40％以上が、何らかのアレルギー疾患を抱えている現状をどう考えるのでしょうか。

そして講演は続き皮膚常在菌・腸内細菌などの共生菌の有用性、O157の集団感染も清潔志向が原因、また、ガン発生因子としてストレス・活性酸素にも言及、イメージトレーニングによるＮＫ細胞の活性化など、いかに免疫力を高めることが疾病予防に重要であるかを含め、「不老の免疫学」等々、さまざまな角度から人の健康に関して解説された。

講演終了後、一般聴講者からの率直な質問にも親切に回答していただいた。

最後に高橋政夫副会長より、参加していただ

▲楽しく聴講する参加者

いた一般聴講者へのお礼と、最後までアキさせないユーモア溢れる藤田先生の素晴らしい講演を讃える閉会の辞があり、講演会は成功裏に終了した。

（広報員　渡辺　勇）

石川県

学術講演会・県民公開講演会

強くなること、強くすること、身体再考

平成25年２月17日（日）、石川県地場産業振興センター新館にて、講師に、いしかわ総合スポーツセンター科学課主任研究員の花岡美智子先生をお招きし学術講演・県民公開講演会が開催されました。

今回の学術講演会は、チーム・石川を陰で支えている花岡先生に、『強くなるにはどうしたらよいのか』・『何故からだを大きくするのか』・『なぜ筋肉トレーニングが必要なのか』・『怪我を予防するには』・『日常のコンディショニング』などスポーツをテーマにした興味深い講演を約300人の参加者は真剣に聴講しました。

講演要旨は次のとおりです。

私は今、金沢の「いしかわ総合スポーツセンター」で学生や社会人のアスリートたちのトレーニングを指導しています。そこで若いアスリートたちに感じるのが、ちゃんとした栄養をとっていない子が多いということです。練習の後で菓子パンを食べる子もいます。おいしいけれど菓子パンは栄養になるパンではありません。菓子パンに多く使われる砂糖は、爆弾と同じで摂りすぎると逆に栄養素を破壊します。

毎日のバランスの良い食事には主食、主菜、副菜、汁物、果物、乳製品が必要です。特にアスリートには一般の人の２倍の量が必要とされています。

▲講演する花岡先生

タンパク質は筋肉をつくるコラーゲンの素となりますし、炭水化物はスタミナ・パワー・集中力の素となります。ビタミン群は関節・筋肉・骨を作る命令を出します。中でもビタミンＡは疲労回復・成長ホルモンの分泌を促進し、ビタミンＣは関節などの怪我予防・免疫力の回復促進に、カルシウム・マグネシウム・鉄分などのミネラルは疲労回復・怪我・骨折の予防になります。これらの栄養摂取の基本は毎日の食事です。食事に即効性はありません。強くなるためには、良いものを良いタイミングで摂ることです。

食事で作られた筋肉の力、筋力は競技力の基盤となります。どの競技でもアスリートたちが筋力トレーニングを行っているのは、単にパワーを強くするだけではありません。運動に使われる神経機能の改善、関節の安定性や正確な姿勢保持力の向上、また怪我などの傷害予防や再発防止にも効果があります。

筋力トレーニングの原則は何度も繰り返す反復性です。飽きることのないよう計画性を持って、まず筋肉を構成する筋繊維を肥大化することに重点をおき、運動神経からの信号で動員できる筋繊維の数を100％に近い状態にもっていける身体づくりを目指します。

それらを続けるためには目前の試合や大会から、将来の自分の競技人生までしっかりとした目標を持つことです。そしてその目標を達成するための条件や課題を選手自身が工夫し克服していくことが選手を強くすることだと思います。

▲熱心に聴講する参加者

第13回文化講演会・
第７回石川接骨みらい塾

「きんさんが長生きした健康長寿プログラム」
クノンボールで楽しく挑戦し元気になろう

平成25年３月17日(日)、石川県地場産業振興センターにて標記の講演会が、柔道整復師の久野信彦先生を招いて開催された。

久野先生は国民的な人気者だった双子の姉妹「きんさん・ぎんさん」の姉「成田きんさん」の歩行トレーニングを行い、一時歩くことができなかった「きんさん」を３ヶ月で自立歩行ができるようにしたことでテレビ・新聞などで広く知られている。

当時は高齢者の筋力トレーニングはタブーであった。高齢者の筋繊維は扱い方をまちがえると裂けて修復ができなくなるリスクが大きいためであったが、久野先生は新たに筋繊維を作っていく方法で大きな成果を挙げており、普段の「文化講演会」よりも高齢者の方々が多く参加し、約130人の聴衆で会場は満席となった。

久野先生の温和な話し方で始まった講演では、NHK・民放局・あるいはご自身で撮影した記録映像がふんだんに使用された。画面に映る「きんさん」の懐かしい笑顔に会場が和み、久野先生の「きんさんは107歳まで寝込むことなく自立歩行をしました」という言葉に会場からは驚嘆の声があがった。

そして高齢者の筋肉強化トレーニングとして考案された「クノンボール」が紹介され、参加者全員で実際に「クノンボール運動」を体験した。

「永く続けるためには楽しんでする。難しいことはしない。無理をしない。そして目標を持つことが大切です。若い人にできるだけ世話にならず、自分のことは自分でやれるような身体を維持するためには、いつトレーニングを始めても遅くなく、本人が日常生活を取り戻したいと意識し続けることで必ず効果が出ます」と言う久野先生の言葉に大きくうなづく姿が会場のあちらこちらで見られた。

講演の参加者からは「クノンボール、簡単で楽しんでやれそうですね」、「施設で介護の仕事をしていますが、今日のお話は大変参考になりました」「今日からやってみるわ。いい話ありがとね」などたくさんの言葉をいただき、大好評の講演会は無事終了した。

（広報員　佐藤裕之）

愛知県

第７回県民公開講座
笑顔にまさる薬なし

本会主催の県民公開講座は、平成20年８月からほぼ年に一度の割合で行われてきた。２月17日(日)、その第７回が名古屋駅前のウインクあいちで開催された。過去６回は、医学や介護、社会医療などを主なテーマとし、その分野の専門家らを講師にお招きして催してきたが、昨春の本会の公益社団法人認定に伴い、今回は県民の皆さんにもっと気楽な話で楽しんでもらおうと、タレントで講談師の水谷ミミさんをお迎えし、「笑顔にまさる薬なし」と題してご講演いただいた。

佐久間稔晴会長は冒頭、「わたしたちは伝統治療である柔道整復を接骨院、あるいは整骨院として県下で開業している仲間の集まりであり、たくさんの同業がある中でこのような催しなどで、県民のみなさんの健康・福祉の向上に寄与する唯一の団体として県知事から公益社団法人の認定を受けています。今回はガラリと視点を変えて、芸能界の中で健康に関する成果を話題

として提供いただける方をと考え、皆様ご存知の講談師･水谷ミミさんにご講演いただきます」と挨拶した。

1949年に三重県で生まれ名古屋で育った水谷さんは、東海地方や関西地方のテレビやラジオ番組に数多く出演し、大阪・松竹座などの舞台でも活躍する。1998年、大阪の講談道場「旭堂（きょくどう）」一門に入門。2005年には南鱗の門下で講談界初の認定プロとなり、水谷風鱗として釈台にも立つ。かつて人気を博した漫画トリオの上岡龍太郎氏に師事し、故横山ノック氏との親交も厚く、芸能界に豊富な人脈を持つ。私生活では90歳を超えるお母様の面倒を独りでみているとのこと。

午前10時、水仙をあしらった中振袖で登場した水谷さんは、そんな人脈の中の幾人かのエピソードを面白おかしく紹介したあと、お母様の介護の孤軍奮闘ぶりを交えながら、テーマである笑いにまつわる話題を、ユーモアを随所にちりばめて語られ、305人の聴衆（一般県民113名、会員190名、勤務柔道整復師２名）を笑いの渦に巻き込んだ。

悩みの95％は悩んでもどうにもならないこと、笑って暮らすとNK（ナチュラルキラー）細胞が2,000個でき４回大笑いすると、１日8,000個できると言われている癌細胞をすべてやっつけてくれる（？）こと、その笑いは作り笑いでもいいこと、暗く陰気で愚痴ばっかり言い、人の悪口を言う人には貧乏神が憑くこと、「喜べば喜びごとが喜んで喜び集めて喜びに来る」ということ、くよくよしないで笑っていれば大難を中難に、中難を小難にできること、そこに感謝

▲ウインクあいち小ホール

▲講談師・水谷ミミさん

の言葉をくわえることが大切だということなどを、軽妙な口調で話された。しかし抱腹絶倒のお話の中には貴重な人生訓が織り込まれており、楽しい中にも得るものがあった。

後半15分、水谷さんはがらりと雰囲気を変え、水谷風鱗として講談を行われた。かつて名古屋が生んだ最高齢の“アイドル”、「きんさん・ぎんさん」の妹、蟹江ぎんさんの娘さんたちで、合わせて372歳の大正生まれの４人姉妹の日常を題材に、それまでの口調や表情から一変し、キレとテンポを信条とする講談師の顔になって話された。

新しい視点で開催された今回の公開講座は、午前11時30分、水谷さんの講演こそが何にもまさる薬となった参加者のたくさんの笑顔とともに滞りなく終了し、公益事業としての役割を大いに果たした。

（広報員　長谷川貴一）

滋賀県

柔道整復学術大会

平成25年１月27日（日）、午前９時20分から大津市生涯学習センター4F 視聴覚室において、平成24年度本会学術大会（学術研修会）が開催された。

この日は、今冬一番の寒波の影響で大変寒い中にもかかわらず本会会員また、会員以外からも多くの聴講者があり会場は満席となった。

講師には、（社）富山県柔道整復師

会会長の髙崎光雄先生をお招きし『接骨業務50年の臨床を経て』と題してご講演いただいた。

伊部正記学術部長の開会の辞に続き、中江利信会長の挨拶では、「本日は、日曜にもかかわらず多数ご出席していただきお礼を申し上げます。相変わらず当業界を取り巻く環境は厳しい状況です。第２回目の柔道整復療養費検討専門委員会の開催の日程も未定だが、政権が代わりまだまだ流動的な部分も多いがしっかり動向を見守っていきたい。このような状況下ではあるが、やはり学術の研鑽は大切です。本日の講師、髙崎先生は富山県柔道整復師会の会長であり、日整の派遣講師も務めておられます。今日は良い機会であります。臨床経験が大変豊富な髙崎先生の講演をしっかり聴講していただき、明日からの施療の糧としていただきたい」と述べられた。

▲熱心に聴講する参加者

講演では、我々柔道整復師の根幹でもある骨折、脱臼を中心に先生の50余年にわたる臨床経験と知見に基づいたお話を多くのスライドや貴重な動画、時には実技を織り交ぜながら論理的に解りやすく進められた。

中でも複雑多岐にわたる上肢の骨折については、治療に難渋する例や自家矯正が期待される例また、安易に取り扱ってはならない例などそれぞれタイプ別に具体的な症例を示して説明していただき、大変基本的なことではあるが、改めて骨折を取り扱うに際しては、初期の正確な評価と治療方針の確立。また、より正確な整復手技が重要であるということを再認識させていただいた。また先生は、日常施療で遭遇するピットホールに対応できる知識と経験を養うことの大切さやまた、レントゲン画像も当然必要であるが、外観像（外形像）で「すべてを想像する」ということも非常に重要であると説いておられた。そして最後に先生は、大変厳しい時代ではあるが、このようなときこそ共存共栄を忘れず「接接連携」を大切にして正しい技術の伝承をし、互いに協力し合い頑張っていかねばならないと強く訴えておられた。

▲整復法を説明する髙崎先生（右）

参加者は、終始熱心に聴講されており、講演後の質疑応答では多くの意見交換がなされ、その関心の高さがうかがえた。この研修会では、多くのことを吸収させていただき、また、「柔道整復師＝接骨師・ほねつぎ」としての真髄たるものを改めて認識できた貴重な講演会だった。

（広報員　岡田博之）

兵庫県

平成24年度学術研究会

平成25年２月３日（日）、本会会館5F 多目的ホールにおいて、標記学術研究会が会員116名、一般８名、学生42名、計166人の参加のもと開

▲特別講演する大道先生

▲発表された会員

催された。

今年度の特別講演は、愛知医科大学学際的痛みセンター理学療法士大道祐介先生をお招きし「痛み学ー急性痛と慢性痛の違いー」についてご講演いただいた。

講演の内容は、従来痛みは主観的なものであり、客観的なスケールでなかなか評価しがたいものであった。しかし近年、痛み系の神経学的な解明が急速に進展し、種々多様な痛みついて概念の整理が進んだ。一般的な外傷など組織の損傷時に発する急性痛、その痛みが数カ月続く慢性痛、そしてそれら以外に慢性痛でも組織の損傷に関わらず神経系の可塑的異状による“慢性痛症”といわれるものの存在が明らかになった。それらのメカニズムについて細かく講演いただいた。

特別講演の後、以下の会員発表９題、学術部推薦発表１題が発表された。

会員発表

・鎖骨骨折についての考察　観血療法適応例に遭遇して

尼崎支部　上濱博文会員

・転倒による高齢者の上腕骨脱臼骨折と上腕骨外科頸骨折の２症例について

阪神北支部　根來保彦会員

・変形性膝関節症が起因と考えられる膝関節傷害の一症例

阪神南支部　古谷昌史会員

・指骨骨折に対する GB（grasping a bandage）固定法

神戸東支部　塚本顯彦会員

・股関節 ROM から観た腰痛評価の考察

神戸西支部　岡田英士会員

・ゼロプロマッサー（ZERO Pro Massseur）を使った施術法

東播支部　竹本浩彰会員

・ハイボルテージ療法

姫路支部　西山武男会員

・スポーツ外傷についての一考察

西播支部　内海宏哉会員

・肩関節前方脱臼の一整復例

但馬支部　濱　篤史会員

学術部推薦発表

・橈骨遠位端関節内骨折における指導管理の工夫

森ノ宮柔道整復研究会　西川知也先生

最後の学術部推薦発表では、長期固定による拘縮予防のためには固定後、早期より自動運動を開始しなければならないが、自動運動は、手関節外在筋の収縮を惹起し、再転位の危険因子になると数値的に証明し、自動運動より他動運動の方が良い結果が得られるという発表であった。学術部が掲げる「温故知新から温故啓新へ」のスローガンに見合った学術研究会であったと思われる。

（広報員　本田　崇）

広島県

平成24年度第２回定期学術講習会

平成25年２月10日（日）、午前10時から本会会館において、標記講習会が開催されました。

１．特別講演『柔道整復師による骨折の臨床ー保存療法への取り組みー』

〈講師〉セルテック新潟柔道整復師養成学院講師

▲講演する早川先生

▲実技指導する早川先生

日本柔道整復接骨医学会
学会誌編集委員
早川雅成先生

早川先生は、日本柔道整復接骨医学会において毎年数多くの論文発表を行っている栗原整形外科に長年勤務、数多くの骨折、脱臼等、外傷に携わってこられ、「近年、柔道整復師の業務が多様化する中、柔道整復師の原点（骨折・脱臼）である、保存療法のスペシャリストであった原点回避」という我々の本分である外傷についてご講演されました。

①骨折・脱臼における徒手整復の実際〈症例掲示〉

さまざまな外傷に対し、実際の徒手整復、手術などの動画を交え、先生が記録された数々の映像を紹介しながら解説されました。

②整復法の工夫

骨折臨床における技術継承において、一子相伝的（勘、コツ、経験、体得）だけでなく、マニュアル化（文章化、数値化、評価、ガイドライン）の重要性を強調し、それにより医師、国民の認知度、柔道整復師の信頼性の向上につながると述べられました。

マニュアル化について橈骨遠位端骨折に関しての分類では、これらは保存療法か手術療法かの目安になっており、有効な徒手整復手技、固定法を導くものでなく、自ら考案し分類（下記表示）した、多様な選択で整復、動画を紹介されました。

また、ビジュアル（動画）で記録する利点として、

1．初診時、整復後の状態が一目瞭然。
2．経過的に比較することが容易である（症状、可動域など）。
3．整復操作、整復に費やした時間が確認できる（効果的かつ愛護的に行えたか？）。

と提言され、マニュアル化、記録を残すことの意義について説明されました。

③固定の工夫

固定における有効性の検証(初期固定と予後)として、強固な外固定群と機能的キャスト群において比較、検証され、骨折保存療法の臨床的、実践的な体系は確立してない可能性があり、日々の臨床こそ創意工夫（研究）の現場で、既存の一般的手法であれ、考案した新しい手法であれ、ほかの医療従事者が理解できる尺度で評価する必要があるとの見解を述べられました。

その後、「柔道整復師の骨折・脱臼に対する施術（技）がもたらす可能性は日本固有の職業、伝統、文化、芸術に匹敵するものである」と魂が揺さぶられる素晴らしい内容でした。

各骨折型に対する有効な徒手整復手技を選択するための分類

①長軸 →	②矢状面 →	③前額面
↓	↓	↓
T.1. 回外位牽引〈指牽引あり〉	F. 屈曲整復法	U.1.40～55°尺屈
2. 回外位牽引〈指牽引なし or 中指のみ牽引〉	E. 伸展屈曲整復法	2.10～25°尺屈
3. 中間位牽引〈指牽引あり〉	S. 剪断整復法	3.25～40°尺屈

▲会長と発表者

最後に、

- 侵襲が少ない柔道整復師の技術（徒手整復、外固定）は有益な医療資源になり得、医療費軽減にも貢献できる可能性がある。
- さまざまな環境的、社会的要因はあるが、柔道整復師は骨折の保存療法を積極的に行うべき（原点回帰も重要）。
- 柔道整復よ！「ほねつぎ」であれ！

と力強い言葉で締めくくられました。

本来、柔道整復師が業務として行うべき外傷治療、今後の若い柔道整復師を正しい方向へ導き、柔道整復師の地位とプライドを持ちつつ、我々本来の存在のあり方について改めて考えさせられた大変貴重な講演を聞くことができました。

2．会員研究発表

『足の舟状骨疲労骨折についてー私が経験した一症例と考察を含めてー』

備後支部　猪原康弘準会員

舟状骨疲労骨折は外傷の原因なく疼痛を訴え来院することが多く、その疲労骨折に対し症状悪化まで判断できず、なぜ発生したのか、症状経過、また舟状骨疲労骨折を疑う所見においては注意し施術しなければならないとの貴重な報告でした。

『上腕骨近位端骨折の３症例』

備後支部　西田健男準会員

日常の施療で時々遭遇する上腕骨近位端骨折で、担当した３症例について、整復にあたる注意点、固定材料の判断、固定期間、運動療法の重要性、医師の見解も踏まえ発表されとても参考になりました。

『大腿前面の打撲による血腫を伴う筋挫傷についてー大腿部打撲による化骨性筋炎の一考察ー』

備後支部　井上　隆準会員

他医療機関にて初期治療の不手際から起きてしまった化骨性筋炎に対し、接骨院でできる説明、施術法、固定、処置、初期治療の重要性についての貴重な症例報告でした。

『中手骨骨幹部骨折の２症例』

備後支部　佐藤禎晃準会員

中手骨骨幹部骨折の不安定型の２症例において転位状況を把握し、それにあった整復操作、整復位が保てるように牽引固定を行い良好な結果が得られたという、創意工夫が随所に見られたすばらしい内容でした。

厳しい状況が続く、柔道整復師業界ではありますが、会員が日々技術の研鑽をし、学習することで今現在の苦境の突破口が開かれると信じております。

（広報員　宮迫太一）

福岡県

第22回生涯学習研修会

平成25年１月26日（土）、16時から、福岡市中央区渡辺通りの電気ビル４階にある『みらいホール』において、標記研修会が開催された。

特別講師として（公財）柔道整復研修試験財団代表理事・東京慈恵会医科大学教育センター教授の福島統先生をお迎えし、『卒前教育、卒後研修そして生涯学習～国民に求められる柔整師になるために～』の演題で講演が行われた。

開会に際して、松岡会長より挨拶があり、本会の公益社団法人移行の経過について「冒頭に一つお知らせがあります。それは昨日、第42回福岡県公益認定等審議会が開催され、当会が申請しておりました公益社団法人の移行について認定されることが決定しました」と伝えられると、挨拶途中ながら会場から歓心の拍手が沸き起こった。

その後、医療人として生涯学習の必要性や卒後臨床研修制度の推進について話され、最後に「厳しい現実を打破するため、絶えず自己研鑽

▲生涯学習研修会

を積んで知識や技術を磨いていくためにも、若い先生は勿論ですが、ベテランの先生方も新しい気持ちで今日のお話をしっかり聞いて帰ってください」と締め括られた。

福島先生の講演は、医学史全般の話の中で柔道整復師を取り上げて行われ、柔道整復師は適応的熟達者にならなければならず、医療の技術は知識を基盤とした安全な技術の行使とならなければならないこと、またそのためには、知識と観察力を養うことが大事であり、自分の仕事が好きでなければならないと述べられた。

そしてそれにより、仕事に誇りが持てて、楽しい人生を送ることができ、また、医療の適格者となるためには嘉納治五郎師範の「精力善用、自他共栄」の心を持たなければならず、そのためには生涯学習が大切になることを説明された。

また、臨床にあたるには知識のみではできないことから、熟達者の技術の学習と医療の適格者となるための卒業後できるだけ早い時期での卒後臨床研修の必要性があることが話された。

▲講演する福島先生

たくさんの例とユーモアを交えた説明で、楽しく分かりやすい講演となり、盛会裏に終了した。

（広報員　勢木博之）

ボランティア・その他

千葉県

ヘルシー船橋健康フェア

保健・医療・福祉関係の13団体主催、船橋市の後援により「ヘルシー船橋健康フェア」が東武百貨店船橋店６階イベントプラザで１月17日(木)～１月22日(火)までの６日間開催された。

毎年この時期に開催され今回で26回目となり、血管年齢や骨密度の測定、健康体操、専門家による健康相談など、来場者に対し健康への意識付けを行い、医療・福祉関係の連携を強化していくねらいで開催されている。

本会船橋鎌ヶ谷支部では船橋市医師会よりお誘いを受け今回初めて参画し、健康相談ブース

▲寝たきり予防体操

▲転倒予防健康体操を指導する会員

において青木副支部長と富田学術部長により「転倒予防健康体操」を実施、立ち見ができるほどの盛況で市民の健康への関心の高さがうかがわれた。

（広報員　渡辺　勇）

石川県

能登和倉万葉の里マラソン2013

平成25年３月10日（日）、「能登和倉万葉の里マラソン2013」が七尾市和倉温泉周辺で開催され、日本陸連公認コースのフルマラソンをはじめ10部門に38都道府県から過去最多の7,636人がエントリーしました。今年も七尾市から本会のサポート接骨石川・赤十字奉仕団が要請を受け、地元能登支部や各支部より40名の会員が参加しケアサポート・ボランティアを行いました。

今年の北陸地方は、雪は少ないものの例年以上に寒さの厳しい冬でしたので、低体温症状への対応に力を入れました。七尾市に２台の電源機を用意してもらい、充分な電力を確保した上で協力業者から昨年、選手に喜ばれたスチーム温熱器を５台も借り、さらに40個のミニ湯たんぽと全身を包む毛布を用意して低体温症状の選手の対応に備えました。同時に脱水症状が出る場合も考慮し充分な水やスポーツドリンクも準備しました。

ケア・ブースが設営された和倉観光会館２階ホールには、朝７時には早くも選手が訪れ、競技前はストレッチに加え、競技力向上と傷害予防のための運動療法などやテーピングを、そして競技後にはストレッチなどのケアに加え低体温症、筋痙攣の対応を行いました。今年はフルマラソンの選手が一番多く291人、10キロの選手が185人、親子ペアやウォークなどの参加者が34人と合計で過去最高の510人にケアを行いました。サポートを受けた選手はもちろん、主催者や関係者、関係団体の皆さんからもたくさんの感謝の言葉をいただきました。

今後も、柔道整復師の職種をいかしたボランティア活動をとおして、国民の健康増進にお役に立てればと願っています。

▲サポートブース

▲サポートメンバー

（広報員　佐藤裕之）

静岡県

人間を救うのは、人間だ！

この競技の開催目的は、赤十字の基本理念である「人道」（人間の苦痛を予防軽減し、生命の尊厳を確保する）という考えに基づき、参加

者自身日常生活における安全意識を高めるとともに、事故や災害時にお互いが助け合いながら活動するための知識と技術を向上させることを目的とします。

平成25年２月２日(土)、静岡市中央体育館において昨年度から始まった第２回赤十字救急法競技会が開催されました。

第１回目では、救命応急手当競技で３位銅メダルをいただきました。

今回は、優勝を目指し大会までに４回の合同練習を行い、その後は自宅にて復習を重ね本番に備えました。

大会は、午前10時から開始され、静岡県内から198チームが参加をしました。

この競技は、チームを編成し応募すればどなたでも参加できます。我々は、柔道整復師赤十字奉仕団として４種目に参加をしました。

１、三角巾８つ折り競技
　開き三角巾を８つ折りにし、結んだ本数と正確さを競います。

２、三角巾リレー
　三角巾を使い傷の手当をする速さと正確さを競います。

３、救命応急手当競技
　傷病者を救急隊に引き継ぐまでの観察と手当の正確性をチームで競います。

４、心肺蘇生競技
　心肺蘇生とAEDを用いた除細動の手技（ガイドライン2010一次救命処置の標準実技）の正確性を競います。

赤十字社大会会長挨拶の後、本会奉仕団による「健康柔（やわら）体操」で体をほぐしてから競技が開催されました。

▲三角巾リレー

▲救命応急手当競技

また、体育館２階剣道場において、各奉仕団のPR（交流コーナー）も開催し、本県は、東日本大震災ボランティア活動に、参加したときのスライド写真を公開し、テーピング法の実技なども披露して、柔道整復業をアピールできたと思います。午前は雨でありましたが、昼ころから晴天となりかなり気温が上昇し、会場内もヒートアップしました。今回は優勝を逃したものの、全体を通しての、敢闘賞をいただきました。この競技会を通じて感じたことは、競技としては、時間、正確さを競いますが、実際現場に遭遇したとき何ができるか、それは「迷わず行動をする」、このことが我々医療人として大切なことではないかと感じました。そして、救命とは我々の柔整業務と同じで日々研鑽していく必要があると感じました。

（広報員　小澤喜一）

愛知県

第７回フォローアップ講習会

３月17日(日)、午前10時から第７回介護予防・機能訓練指導員フォローアップ講習会が開催された。本会には平成23年度まで機能訓練指導員研修協議会という組織があり、昨年４月からは新設された介護部の下部組織として機能訓練研修委員会に改称して新たに発足した。かつて日整で毎年行われた介護予防指導員指導者講習会での講習内容を反映して、フォローアップ講習会は主に協議会のメンバーで内容を企画し講師を務めて開催してきた。今回も委員会で内容を検討し、第22回機能訓練指導員実務研修会を兼ねたフォローアップ講習会として、以下の演題と講師で開催された。

Ⅰ．運動器の機能向上訓練の成果
ー名古屋市介護予防事業実施報告(第２報)ー
長谷川貴一　機能訓練研修委員会アドバイザー

Ⅱ．デュアルタスク（二重課題）と転倒予防
加藤博吏　介護部員・機能訓練研修委員会委員

一昨年本会は、名古屋市会員が実施している機能訓練の新規利用者のうち、74名分の訓練前後の心身機能の変化を調査し分析し、昨年のフォローアップ講習会でその結果を報告した。今回はその第２報として、訓練による身体評価項目や基本チェックリストの変化や基本チェックリスト同士の相関などを紹介した。その中で歩行機能やバランス能力など転倒予防にかかわる評価項目の改善が認められたにもかかわらず、転倒リスクや不安感が改善されていないことや、日にち感覚が有意に改善することが明らかになった。これらに対してより効果を高めるために、転倒に関わる筋や機能の低下を詳細に評価し、それに基づいた選択的かつ重点的な訓練を行うことや、自宅での訓練において曜日や日にちごとに決まった運動処方をすることが提案された。また、われわれの訓練指導が運動器以外の機能の向上にも有効であることが示唆されたため、その有効性や相関を検証し、有効であることの根拠や相関のメカニズムを明らかにできれば、運動器の機能向上訓練の適用範囲が広がる可能性がある。そのためにはより具体的な目的を定めた研究デザインを構築していく必要があると結論づけた。

▲報告する筆者

デュアルタスク（二重課題）とは、主課題と副課題を同時に行うことである。例えば歩行中（主課題）に人から話しかけられたりする（副課題）と歩幅が小さくなったり立ち止まったりする傾向があり、高齢者はこのデュアルタスクを遂行する能力が低下することで、より転倒しやすくなるといわれている。講師の加藤会員は、バランス能力や歩行時間がデュアルタスクによって低下する事例を論文などから紹介し、参加者全員に座位ステッピング下でのしりとりなどを行わせて、笑いを織り交ぜながら楽しく講習を行った。用具として実際に使っているマルチターゲットステップを披露しながら、デュアルタスクそのものは転倒リスクを高めるが、デュアルタスクを利用したトレーニングを行うことで転倒予防の効果が高まることを提示した。最後に、まずは歩行動作の最中は歩行だけに集中するような指導が必要だと述べ、転倒予防効果を高めるためにデュアルタスクを利用したトレーニングを研究し導入していってはどうかと提案し講習を締めくくった。

愛知県では名古屋市を中心に11市３町で事業参入を果たしており、現在もさらに参入交渉が進められている。そのため介護予防に関する情報には非常に関心が高く、講堂を埋め尽くした293人（勤務柔道整復師12名含む）の参加者は最後まで真剣に聴き入っていた。

（広報員　長谷川貴一）

▲マルチターゲットステップを説明する加藤会員

本の紹介

『Anatomy trains 第２版』

日整学術部員　大河原　晃

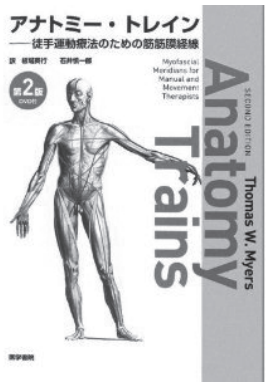
今回紹介する本は、医学書院から出版された「Anatomy trains（アナトミー・トレイン）第２版」です。

著者はトーマス・W・マイヤース氏で、訳者は板場英行氏と石井慎一郎氏です。マイヤース氏は世界各国で統合的ボディーワークを実践していてタイトルに「アナトミー・トレイン」とあるように、人体を走る「筋筋膜結合の経線」を鉄道モデルに見立てている。それは、体中に張り巡らされた筋・筋膜の網を鉄道モデルになぞらえ、姿勢や動作の安定がどのように得られるかを解明するため解剖学的見地から編み出された新理論である。

従来の解剖学の機械論的視点は、もちろん有用なものであるが、身体内部との関連性を考えた場合、むしろ即物的と捉えている。本書で試みられた相関的視点とは、身体を「柔らかな機械」として位置付け、その身体が成長→学習→成熟→最終的には死を迎えるという過程の中で、極めて感覚的にその内部感覚への影響を捉えているようである。アナトミー・トレインの考え方は、人間を筋膜経線における筋膜網とそのバランスの中で統合された存在として捉えているが、これは人間の発達という観点からすると非常に狭い範囲の概念に過ぎない。しかしこのバランスを整えるためのアプローチこそ身体内部感覚に間違いなく役に立つと考えている。そして、今後の研究の概念と相まって、21世紀のニーズによりふさわしい身体教育に繋がっていくと著者は思いを馳せている。

本書は、セラピストあるいは一般読者が概念をすばやく理解し、既存のあらゆる分野でさらに見解を深められるようになっている。また各章は分かりやすいように色分けしてあり、第１章と第２章では筋筋膜経線の概念である筋膜を検討し、身体の解剖学的構造に対する「アナトミー・トレイン」のアプローチを解説している。主要「ライン」の各章には、最初に全体図、ついで解説、略図、表を示し、読者が概念の範囲をすぐに理解できるようになっている。第10章と第11章は、「アナトミー・トレイン」の概念を一般的な運動の型に当てはめて、姿勢の分析方法を示している。巻末には３つの付録も収載されている。

最後に著者はこの異次元の解剖書を通して、セラピストが筋・筋膜による縦のつながりを理解し、なおかつ患者の身体を読む能力（body reading）の基本と要点を再学習することにより、触診技術の向上と臨床的治療手技としてこの著書が認識され、今後の臨床的評価と治療効果のエビデンス構築への学問的発展へと進んでいくことを望んでいるようである。是非ご一読を。



医学書院￥6,825

私の夢

夢への挑戦と前進

今村学園ライセンスアカデミー 2年　砂守彬子（すなもりひさこ）

「子どもにばかり夢を語らせないで。夢を語れる大人になろう」

この言葉が大人になった私の心を大きく動かした。

私は、奄美大島で社会人として仕事をする傍ら、10年間中学校のバスケットボールの指導に携わってきた。仕事へのモチベーションを維持できたのも、このバスケットボールの指導業があったからといっても過言ではないほど、私はこれまでバスケットボールに時間を費やしてきた。しかし、そんな指導業も9年目に入ったころ、限界を感じるようになっていた。それは仕事が忙しく、なかなか練習に顔も出せず、伝えたいことも伝わらなくなり、いつしか苛立ちさえ感じるようになっていたからである。そんなときに私が自分自身と向き合うきっかけとなったのがこの言葉だった。

スポーツの世界、特に中学生の時期は、個々の能力も違えば、技術習得にかかる時間もそれぞれ異なる。追い込み過ぎれば当然ケガにもつながる。そんな厳しい環境の中、指導者に求められるものは、個々の「身体」と向き合う力だと私は感じた。なぜこの子はうまくできないのか？なぜこのケガは起きてしまったのか？その個々の内面に隠された原因を紐解く力なくしては、指導は務まらないというところに私はゆき着いてしまった。そのとき私は、仕事も指導業も捨て、柔道整復師の道を志す決心をした。

最初は仕事を辞めて新たな目標を目指すことに周囲からは多くの反対意見があった。しかし、夢を持ち、夢を語ることで応援してくれる仲間がいることも知った。私は今、その応援のすべてをエネルギーに変え、新たな道を歩んでいる。柔道整復師の道を志すようになってからは本当に新たな発見の連続で、「あのときに自分に今の知識があれば、あの子はもっと変わっていたかもしれない」とか「あの子を救ってやれたかもしれない」と思うことが多々ある。そのたびに、過去の無力だった自分に気付かされ、心苦しくなることもあるが、そのような想いもすべて受け入れて、これから確かな知識と技術を身に付けていけたらと思う。

私は近い将来、自分の生まれ育った奄美大島で整骨院を開業し、たくさんの可能性がある子どもたちのケガのケアや予防、指導などに携わりたいと思っている。

「スポーツで島おこし」を揚げる奄美大島は、現在スポーツにおけるハード面は先行して充実してきている。その一方で最も大切なソフト面が置き去りになっているように思う。そんな奄美大島の島おこしに少しでも力になりたいと私は強く思っている。

小さな島で生活していると、つい都会をうらやましく思ったり、無理に背伸びしてみたり、できない理由、やらない言い訳、無理な原因を探してしまいがちである。今までの自分がそうであった。しかし、私は小さな島にいても夢を持てること、夢を叶えられることを子どもたちに自分の姿で伝えたい。

夢を持つ大人が増えることで、夢を持つ子どもが増える。夢を持つ子どもが増えることで町が明るくなる。町が明るくなることでみんなが元気になる。私はそう信じている。

この夢を叶えるために、今を精いっぱい生ること、そして同じ夢を持つ仲間で未来ある島にすること、それが私の夢である。

投稿

「高齢者の終末期医療およびケア～胃ろうを造設すべきか～」に参加して

千葉県接骨師会　渡辺　勇

平成25年２月23日（土）、アパ＆リゾート東京ベイ幕張ホールにおいて、千葉県医師会主催の「第１回終末期医療に関するシンポジウム」が、以下の内容で開催され、コメディカルの一員として聴講する機会を得た。

柔道整復師としては直接かかわる問題ではないが、社会的に議論されている問題であり、医学会ではこのような内容で議論されている現状を、介護関連業務にも携わる業界として、知っておくべきではないかと考えここに報告する。

（司会進行）海村孝子千葉県医師会理事
開会の挨拶　井上雄元千葉県医師会会長

◇基調講演

座長　土橋正彦千葉県医師会副会長
『日本老年医学会　高齢者ケアの意志決定プロセスに関するガイドライン
～人工的水分･栄養補給の導入を中心として～』
筑波大学大学院人間総合科学研究科
教授　飯島節先生

超高齢社会における人の死について、高齢者をどこで看取るのか、そこで発生する経済的課題、そして認知症高齢者の終末期に関して、どこで、誰が、どうやって看取るのか？高齢者が安心して最期を過ごせる場所の確保が喫緊の課題であり、病院以外の場所での終末期ケアのあり方を明らかにする必要がある。

そして高齢者にふさわしい最善の医療およびケアを行うとき、胃ろう造設を含む経管栄養や、気管切開、人工呼吸器装着などの適応は、慎重に検討されるべきであり、何らかの治療が、患者本人の尊厳を損なったり苦痛を増大させたりする可能性があるときには、治療の差し控えや治療からの撤退も選択肢として考慮する必要がある。

▲講演する飯島教授

そして生命倫理を考えるとき、本人の意思の尊重が基本原則であり、本人の人生をより豊にすることを目標に、関係者がコミュニケーションを通して、共に納得できる合意形成を目指すことが必要である。

結局は一人ひとりの人生観の問題であり、高齢期に迎える「ノーマルな死」のありかたについて今後も更に国民的議論が必要であると結んだ。

◇シンポジウムならびに意見交換

座長　千葉県医師会介護保険等検討委員会
委員長　玉元弘次先生

「胃ろうを作成する病院医師の立場から」
東葛病院外科　濱砂一光先生

「在宅医療を行うかかりつけ医の立場から」
クリニックあしたば　中村宏先生

「訪問看護師の立場から」
訪問看護ステーションいちご
木所律子氏

「ケアマネージャーの立場から」
訪問看護ステーションかがやき
小川律子氏

「看取りまで行っている施設の介護職員の立場から」
特別養護老人ホームローゼンビラ藤原
中原恵子氏

「訪問介護職員の立場から」
千葉県ホームヘルパー協議会理事
岩瀬京子氏

▲シンポジウム

◇意見交換

閉会のことば　田畑陽一郎千葉県医師会副会長

シンポジウムではそれぞれの現場の立場からさまざまな事例を照会、そこで発生した問題点・今後の課題等を提示し意見交換が行われた。

特にリビング・ウイル（元気なうちに延命措置に関する自分の意志を書面に残す）の重要性を再確認した。

平成25年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

	担当都道府県	学会名称		講師・演題	開催予定日
北信越	(公社) 福井県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第35回北信越学術大会　福井大会	○	中京大学スポーツ科学部教授 湯浅景元先生 「ひざ・腰・肩が楽になる一生 ７秒健康体操」	6月15日(土) 6月16日(日)
北海道	(公社) 北海道柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第42回北海道学術大会　札幌大会			7月7日(日)
中　国	(一社) 島根県整骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第38回中国学術大会　島根大会		プロランニングコーチ金　哲彦 「ランナーに必要なコンディショニングについて」	7月15日(祝)
四　国	(一社) 徳島県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第48回四国学術大会　徳島大会			7月14日(日) 7月15日(祝)
東　北	(公社) 宮城県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第34回東北学術大会　宮城大会	◎	「歴史から学ぶ」 伊達家三十四世 仙台伊達家十八代当主 伊達泰宗氏	7月21日(日)
九　州	(公社) 福岡県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第42回九州学術大会　福岡大会			7月27日(土) 7月28日(日)
東　京	(公社) 東京都柔道接骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第32回東京学術大会			9月8日(日)
近　畿	(社) 兵庫県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第38回近畿学術大会　兵庫大会			10月27日(日)
大　阪	(公社) 大阪府柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第７回大阪学術大会			11月10日(日)
東　海	(社) 三重県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第48回東海学術大会　三重大会		シドニーオリンピック・シンクロナイズドスイミング金メダリスト 武田美保先生 「夢を追いかけて」	11月17日(日)
関　東	(公社) 山梨県整骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第36回関東学術大会　山梨大会			平成26年 3月9日(日)

◎印の学術大会は、どなたでも無料でご参加いただけます。
○印は、特別講演のみどなたでも無料でご参加いただけます。

「はつらつ！健康“骨つぎの知恵袋”」新聞連載スタート

平成25年４月２日(火)、(公社) 日本柔道整復師会の新聞連載「はつらつ！健康“骨つぎの知恵袋”」が日本柔道整復師会60周年企画としてスタートし、当日の産經新聞（全国版）朝刊生活面にカラーで掲載された。

本会の萩原正会長は、“「健康寿命」延ばすために”と題した紙面で「現代の子供たちは生活環境の変化により、外で遊ぶことが少なくなり、そのため体力が低下してけがをしやすくなっているようだ。また、高齢者のけがや疾病に伴う障害も増えている。少子高齢化が社会問題となっている。子供のころから丈夫な体をつくり、健康寿命を延ばすことが理想。平均寿命が長くても認知症や寝たきりで過ごすのは大変。年をとっても運動を心がけ、若さを保つことが大切」と語り、加えて本会、柔道整復師、柔道整復術について一般にわかりやすく記した。

今回の連載では、柔道整復師の視点から子供、中高年、高齢者までの体力づくり、けがの予防法など読者をひきつけ、生活面にふさわしい企画を毎週火曜日、１年間52回にわたって掲載していく。

この連載記事が一人でも多く読者の目に触れ、健康維持やけがの予防になれば幸甚であり、これを通じて柔道整復師やその業務内容が理解されより一層身近な地域住民の方々の良き健康アドバイザーの一員になれればと願う。

■現在、産經新聞朝刊生活面に毎週火曜日に連載企画されている「はつらつ！健康“骨つぎの知恵袋”」を日整ホームページからも配信しております。
http://www.shadan-nissei.or.jp/nissei/sankei_list-2.html

はつらつ！健康 骨つぎの知恵袋 ①
日本柔道整復師会60周年

「健康寿命」延ばすために

柔道整復師が開業する接骨院や整骨院には、骨折や脱臼、打撲、捻挫、肉離れなどのけがをした患者さんが来院します。現代の子供たちは生活環境の変化により、外で遊ぶことが少なくなりました。そのため、体力が低下してけがをしやすくなっているようです。また、高齢者のけがや疾病に伴う障害も増えています。

世界保健機関（WHO）は2000年に「健康寿命」という新しい指標を提唱しました。平均寿命から介護状態の期間を差し引いて算出したものです。少子高齢化が社会問題となっています。子供のころから丈夫な体をつくり、健康寿命を延ばすことが理想です。

平均寿命が長くても認知症や寝たきりで過ごすのは大変です。年をとっても運動を心がけ、若さを保つことが大切です。

日本柔道整復師会には、会員1万7千人が所属しています。柔道整復師は厚生労働大臣から免許の交付を受ける国家資格で、その多くは接骨院や整骨院を開業し、国民の健康の維持・増進に携わっています。

柔道整復術は、古来の武術の流れをくむ接骨術が西洋医学に同化されて近代化への道を歩んできました。その名の通り、柔道の経験者が多く、各地で柔道の指導を通して子供たちの心身を鍛錬し、青少年の健全育成にも努めています。

今回の連載では、柔道整復師の視点から子供、中高年、高齢者までの体力づくり、けがの予防法などを1年間にわたり紹介します。

（会長・萩原正＝写真）

この企画の問い合わせは、公益社団法人日本柔道整復師会
〒100―0007 東京都台東区上野公園16の９ ☎03・3821・3511 ＦＡＸ03・3822・2475
http：//www.shadan－nissei.or.jp/

骨継ぎの知恵袋
～身近にある物を使った､応急処置～

学術部

アイディア募集

私たち柔道整復師は部分医療として骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷、その他軟部組織を含む、骨・関節運動器系の急性・亜急性外傷に対する、保存的療法を業としております。その立場から、一般の方々に簡単な応急処置のアドバイスができないでしょうか？

日常生活やスポーツ現場においてはもちろんのこと、震災、交通事故、労働災害などで不慮の負傷に見舞われたとき、一般の方々が身近にある「物」を利用して施すことのできる、骨継ぎならではのアイディア溢れる、応急処置（固定）法を広く公募いたします。

特に、過去の震災やこの度の東日本大震災時に「医療救護ボランティア活動」において「これが役立った！」という「物」や一般の方に分かるその使い方などの情報をぜひ、ご教示いただきますようお願いいたします。

アイディアの提出は、下記の住所、FAX、または、E-mail にてお知らせください。

記

公益社団法人日本柔道整復師会　学術部
〒110－0007　東京都台東区上野公園16－ 9
FAX：03－3822－2475
E-mail:gakujutu@shadan-nissei.or.jp

◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

最近、パソコンで作成された原稿が多くなっています。しかしながら、せっかく入力されたデータでも、印刷された用紙だけでは、もう一度入力しなければならないのが現状です。

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールで添付送付されるか、または原稿にフロッピーや CD を添付してお送りください。

作業効率向上、さらには編集会議の経費削減にもつながりますので、ぜひご協力ください。なおフロッピーや CD は返却しませんのでご了承ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず**日整広報原稿**と記入または入力してください。
★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。
★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報”〈kouhou@shadan-nissei.or.jp〉

日整はつらつ！発行日と原稿締切　※原稿の締切厳守をお願いします。(広報部)

号　数	12号	13号	14号	15号	16号	17号
原稿締切	5 月20日	7 月20日	9 月20日	11月20日	平成26年 1 月20日	3 月20日
発　行	7 月20日	9 月20日	11月20日	平成26年 1 月20日	3 月20日	5 月20日

学術・生涯学習講習会開催のお知らせ

公益社団法人日本柔道整復師会「第21回学術・生涯学習講習会」を下記の日程で開催予定です。ご家族やお知り合いの方もお誘いの上、ご参加ください。

日　　時：平成25年10月13日(日)正午開場
会　　場：日本柔整会館〒110-0007　東京都台東区上野公園16-９
定　　員：100名　入　場：無　料
お申込み：日整はつらつ誌12号にてお知らせいたします。

公開講座プログラム（プログラム内容は変更する可能性がございます）
学術講習会
・富山大学寄附講座報告会　講師／西条寿夫　富山大学大学院教授
生涯学習講習会
・全国ボランティア活動報告
・特別講演　講師／山本一義先生　元プロ野球選手・監督

〈表紙解説〉

『西海国立公園・長串山（なぐしやま）つつじ公園』

（社）長崎県柔道整複師会　岩永　福則
写真　原川　靖宏

西海国立公園に属し、北九十九島を一望できる標高２３４ｍの長串山は、長崎県北部の歴史の町平戸と佐世保との中間に位置します。北松浦半島の西海岸に位置する長串山の南斜面にある同公園からは景勝九十九島が一望できます。４月初旬から５月初旬には、久留米つつじ、平戸つつじを始めとする10万本のつつじと北九十九島とが織り成す景色は絶景です。

ご卒業おめでとうございます！

平成24年度　柔道整復師養成学校　優等卒業生
公益社団法人日本柔道整復師会より額入り表彰状を贈呈しました

学校名	優等生氏名	学校名	優等生氏名
北海道柔道整復専門学校	松井進之介	北信越柔整専門学校	野手　達也
日本工学院北海道専門学校	川戸　祥平	専門学校　浜松医療学院	夏目　真彰
北海道ハイテクノロジー専門学校	鈴木　知代	専門学校　白寿医療学院	城所香代子
盛岡医療福祉専門学校	高橋　滋美	東海リハビリテーション専門学校	佐野　竹志
赤門鍼灸柔整専門学校	安倍　康太	中和医療専門学校	宮崎　雄介
仙台接骨医療専門学校	佐々木　薫	米田柔整専門学校	小野　真嗣
仙台医健専門学校	丹治　優子	トライデントスポーツ医療看護専門学校	歌　　亜美
福島医療専門学校	小林　貴大	専門学校　名古屋医専	西村加麻里
前橋東洋医学専門学校	大園　美鶴	甲賀健康医療専門学校	平野　優人
育英メディカル専門学校	舟喜　晶子	明治国際医療大学	栗栖　　学
呉竹医療専門学校	相田　征吾	京都仏眼医療専門学校	髙橋　広幸
大川学園医療福祉専門学校	粕谷　浩志	兵庫柔整専門学校	奥田　実里
さいたま柔整専門学校	保住　高輝	履正社医療スポーツ専門学校	田中　琢斗
了徳寺大学	小湊　悠維	行岡整復専門学校	知福　綾子
帝京平成大学	高木　瑛基	関西医療学園専門学校	宮川　　治
呉竹鍼灸柔整専門学校	鈴木　理士	大阪府柔道整復師会専門学院	中島　伸夫
横浜医療専門学校	山口　　裕	近畿医療専門学校	津嘉山　亮
帝京科学大学	早川　友人	アムス柔道整復師養成学院	吉川　耕司
日本柔道整復専門学校	関口　　徹	明治東洋医学院専門学校	大槻　隼子
了徳寺学園医療専門学校	岡田　哲宗	東洋医療専門学校	合田　芳樹
日本医学柔整鍼灸専門学校	林　　晃	大阪医専	水本　康平
山野医療専門学校	髙玉　由紀	朝日医療専門学校岡山校	前田　真紀
東京柔道整復専門学校	中島　大悟	朝日医療専門学校広島校	大槻　泰地
帝京短期大学	島村　隼人	IGL 医療専門学校	中森　慶子
東京医療専門学校	永田　裕人	四国医療専門学校	浅野　治郎
東京有明医療大学	今村省一郎	河原医療福祉専門学校	南　　貴宏
北豊島医療専門学校	福田　純詠	福岡医健専門学校	山田　純一
日体柔整専門学校	平岩　祥太	福岡医療専門学校	新家　幸男
日本工学院八王子専門学校	木俣　尚也	福岡天神医療リハビリ専門学校	江藤　勝彦
関東柔道整復専門学校	矢澤賢太郎	九州医療専門学校	永松　寛子
東京医学柔整専門学校	芳賀　道子	鹿児島第一リハビリ専門学校	遠藤　学人
中央医療学園専門学校	髙橋　伴周	沖縄統合医療学院	井土真知子
セルテック新潟柔道整復師養成学院	大箭　知美	琉球リハビリテーション学院	真栄城元寛
信州医療福祉専門学校	小澤　和輝		

日整文芸

（作品は１人３首〈句〉までといたします）

【短　歌】

山梨県　明風　散人

独り居を気遣いくれて折おりを
　頂く馳走の夕餉賑やか

戦友旅立ち知人友人それぞれに
　後追うごとく逝きぬ幾人

小雨舞ふ日老いさらばえし野良犬は
　路地さ迷いて餌漁りゐる

奈良県　長谷川浩行

生姿

三日月やしずかに照す初冬(はつふゆ)の
　ゆうげんの舞能のかがり火

枯葉をや散りて季節のむなしさは
　幾種の木々の小枝をゆする

みちすがら積雪枝になんてんの
　白雪(はくせつ)そめし小鳥はばなく

福岡県　山下　智章

手を合わせ春来ることを待つように
　大樹に咲いた木蓮の花

風光る揺れて輝く薔薇の葉に
　蕾見つけた卯月の初め

【俳　句】

群馬県　鈴木　乗風

雛の客

借命の七十(ななと)をすぐる浮氷

幸すこし余生やすらぐ雛の客

忌参りの朋友酌(く)めり春惜しむ

福井県　田上　滋良

暖かし

凍蝶に六畳一ト間を与えたる

一言の添え書なれど暖かし

大笑いする妻がいて長閑かな

【川　柳】

北海道　阿部　篤夫

朝小雪昼は東京櫻(オウ)満開

雛段(ヒナダン)に国会議員勢揃い

講演や式典祝賀盛大に

（社団法人設立六拾周年記念に出席）

石川県　東　勝一

菰覆い徽珍灯籠忍び足

唐崎松シャッターチャンス子供出る

静かなる時雨亭には卒旅行

（兼六園散策）

編　集　後　記

■社団法人設立60周年記念式典において、40年以上日本柔道整復師会会員として柔道整復業務に精励し、地域社会の保険衛生に貢献された238名の会員に永年業務精励表彰が贈られた。一口に40年、決して平たんな道のりではなかっただろうと想像するに余りあり。私も後５年頑張りたいと思っている。70歳になったら引退し、今までできなかった全国各地への写真撮影の旅にでかけようと楽しみにしている。こんな会員にお付き合いする先生はいませんか。名所旧跡、祭事、景勝地など夢は膨らみ、財布は萎む。このバランス調整をいかにするか、５年間の課題だ。お世話になった地域への貢献？忘れていない。現在進行中であり、仕事以外忙しい毎日を送っている。さあ、今日も前傾姿勢で頑張ろう…と。　**（多毛家）**

■「笑顔にまさる薬なし」と題した愛知県の県民公開講座の中で、笑って暮らすとNK（ナチュラルキラー）細胞が2,000個でき、４回大笑いすると、１日8,000個できるといわれている癌細胞をすべてやっつけてくれる（？）。感謝の言葉を加えることが大切とのこと。日々の臨床の中にも取り入れると本人はもちろん、患者さんにも健康になっていただける。ついつい忙しいと笑いから遠ざかって、愚痴がでてしまいがちだ。笑いのある、感謝する大切さを再認識する講演内容だった。健康情報満載の日整はつらつ！を一般の方々にも多くご覧いただき健康の一助にしていただきたい。　**（家真舵）**

■日整社団法人設立60周年記念式典において、特別記念講演が行われ、日本赤十字社副社長の大塚義治氏が、赤十字について我々が知らないことを細かく説明された。

赤十字マークは、レッドクロスと三日月形の赤新月レッドクレッセントを使い、最近イスラエル１か国だけがレッドクリスタルを使うということを知り、認識を新たにした。

鯉のぼり：撮影　多毛家

そして、世間では義援金の手数料を日赤は幾らか取っていると噂されていましたが、今回、はっきりと手数料は一切取っていないことが分かり、すっきりした思いです。今後、患者さんとの会話で、噂話に華を咲かせることなく、真実だけを的確に伝えたいと思う。　**（魅家下）**

■柔整サロンで義足のランナーのアスリート中西麻耶さんの記事を読んで、祖父のことが脳裏に浮かびました。祖父も障害者であり、柔道整復師でした。もちろん父も柔道整復師で、当時の世の流れで３代目柔道整復師となりました。中西さんも活動資金調達のためセミヌードカレンダーを制作販売とありますが、祖父も当時、何とかして子供に学を付けさせなければとの思いで、両手が使えれば社会貢献できる「ほねつぎ」の仕事を選んだと聞いたことがあり、父の背中も見ましたがやはり、祖父に導かれたのではないかと思います。　**（和座尾）**

■今号１ページに掲載のとおり、公益社団法人日本柔道整復師会の社団設立60周年記念式典が３月24日に文京区の東京ドームホテルで開催されました。式典では厚生労働大臣表彰から生涯学習およびボランティア表彰まで858名が受賞の栄に浴されました。

表彰状や感謝状の１枚１枚は、組織の中で上に立った人たちと、それを支えた人たちの汗と涙の結晶であり、それぞれの重みがあります。業界発展のために長い間、心血を注いだ貴い証に心から祝意を表します。

今回は生涯学習高単位およびボランティア高単位表彰がありました。生涯にわたり学問の研鑽に努めていくことは業界発展と社会貢献につながっていきます。ボランティア活動もしかりです。

世の中は助け合いの精神で成り立っています。立場や環境を越えて、ゆとりのある人はそれなりに、そうでない人もそれなりに、惜しまぬ協力をすることはとても美しいことです。受賞者の皆様に改めて敬意を表します。　**（多夢楽）**

「日整はつらつ！」VOL. 11　MAY 2013

平成25年5月20日発行
公益社団法人　日本柔道整復師会
〒110-0007 東京都台東区上野公園16－9
電 話（03)3821-3511（大代表）

発 行 人　萩 原　正
編 集 者　永 田 官 久
制作・印刷所　東京リスマチック株式会社

柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限りない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。

2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。

3、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。

4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。

5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。